

**卓越大学院プログラム  
平成30年度採択プログラム中間評価  
アンケート調査結果**

**結果報告**

令和4年3月

独立行政法人日本学術振興会

卓越大学院プログラム委員会事務局

## 実施概要

アンケート実施期間：令和3年4月19日（月）～5月23日（日）＊

＊5月14日（金）締切を5月23日（日）まで延長して実施

アンケート対象学生：

### 1. 抽出条件

プログラムに選抜された学生（プログラムが独自に授与する学位又はプログラム修了証の授与対象者）のうち、現在も在籍している全学生（休学中の者を含む）。

### 2. 対象者数

1,017名

### 3. 回答者数

958名（回答率94.2%）

アンケート対象プログラム担当者：

### 1. 条件

令和3年4月1日時点で参画しているプログラム担当者（プログラムに属する学生の研究指導、学位審査等の質保証を担当し、あるいは履修支援、キャリア形成等を総括しプログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う常勤又は非常勤の者）。実施大学以外に所属するプログラム担当者も対象に含む。ただし、プログラム責任者・プログラムコーディネーターを除く。

### 2. 対象者数

1,132名

### 3. 回答者数

1,011名（回答率89.3%）

アンケートの回答依頼スケジュール（参考）：下記の表のとおり。

	担当者	学生
回答の依頼	4月19日（月）	4月19日（月）
第1回リマインド	4月28日（水）	4月28日（水）
第2回リマインド	5月10日（月）	5月10日（月）
第1回締切延長	5月14日（金）	5月14日（金）
第4回リマインド	5月18日（火）	5月18日（火）
第2回締切延長	5月21日（金）	5月21日（金）

・上記のほか、不達との連絡が大学からあった際には個別に配信。

## 目次

目次 .....	2
第1部 学生アンケート調査結果 .....	5
1. プログラムへの参加動機 (問7-1) .....	5
2. プログラムがなかった場合の最終学位 (問7-2) .....	6
3. プログラムに対する感想 (問8) .....	7
4. プログラムで受けた指導 (問10) .....	8
5. 環境の整備と有効性 (問11A) .....	10
6. 経験の有無と有効性 (問11B) .....	11
7. 身に付いた能力 (問12) .....	13
8. プログラムへの評価 (問13) .....	13
9. プログラムの効果・負担 (問14) .....	14
10. 修了後の進路 (問15) .....	14
11. 学生の属性 (問2, 3, 4, 5) .....	16
12. プログラム情報の獲得方法 (問19) .....	19
第2部 プログラム担当者アンケート調査結果 .....	20
1. プログラムへの関与 (問3) .....	20
2. 指導の内容 (問5) .....	21
3. 実施されたプログラムと整備された環境 (問6) .....	23
4. プログラムの有効性 (問7) .....	25
5. 運営・管理 (問8) .....	25
6. プログラムに対する印象 (問9) .....	26
7. 指導・支援の改善のための評価等の実施 (問10) .....	27
9. 参加教員の属性 (問2, 3, 4) .....	28
附録A サンプルと回答者数 .....	31
附録B 学生アンケート調査と単純集計結果 .....	32
附録C プログラム担当者アンケート調査と単純集計結果 .....	49

【参考：学生とプログラム担当者の設問の比較】

以下の設問については、学生とプログラム担当者へ同じ質問をしています。参考までに対応する設問の一覧を示します。

学生		プログラム担当者	
問 1 0	<p><b>【4. プログラムで受けた指導】</b></p> <p>このプログラムで、下のような指導を受けましたか。また受けた場合、それは有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・副指導教員など指導教員以外の教員からの指導</li> <li>・企業、政府機関など学外者からの指導、助言</li> <li>・メンター等による授業外のサポート</li> <li>・産学共同研究の場への参画</li> <li>・主専攻以外の分野の授業等の履修</li> <li>・研究室ローテーション</li> <li>・プロジェクト形式による授業や課題</li> <li>・キャリアパス具体化のための情報提供</li> </ul>	問 5	<p><b>【2. 指導の内容】</b></p> <p>このプログラムで、先生は下のような指導を行われていますか。また、行っている場合はそれは有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導学生以外の学生への指導</li> <li>・主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等</li> <li>・産学共同研究の場への学生の参画</li> <li>・研究室ローテーションの受け入れ</li> <li>・プロジェクト形式による授業や課題</li> <li>・メンター等としての授業外のサポート</li> </ul>
	<p><b>【5. 環境の整備と有効性】</b></p> <p>このプログラムで、下のようなことは整備され、経験していますか。またそれは有効に機能していますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援</li> <li>・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境</li> <li>・外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会</li> <li>・学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会</li> <li>・QE (Qualifying Examination) などによる審査の機会</li> <li>・英語による授業、指導、QE等の機会</li> </ul>		<p><b>【3. 実施されたプログラムと整備された環境】</b></p> <p>このプログラムで、下のようなことは実施、あるいは整備されていますか。また1～3を選択した場合、それは有効に機能していますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業、政府機関など学外者からの指導</li> <li>・キャリアパス具体化のための情報提供</li> <li>・奨励金や授業料免除等大学からの金銭的支援</li> <li>・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境</li> <li>・外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会</li> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）</li> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）</li> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）</li> <li>・本プログラムの中での留学</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動</li> </ul>
問 1 1 A	<p><b>【6. 経験の有無と有効性】</b></p> <p>このプログラムの枠によって、下のことを経験しましたか、また経験した場合それは有効でしたか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）</li> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）</li> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）</li> <li>・本プログラムの中での留学（3ヶ月未満）</li> <li>・本プログラムの中での留学（3ヶ月以上1年未満）</li> <li>・本プログラムの中での留学（1年以上）</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動</li> </ul>	問 6	
問 1 1 B			

<p>問 12</p>	<p><b>【7. 身に付いた能力】</b> このプログラムによって、下のような能力は身に付いたと思いますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な専門的知識・研究能力</li> <li>・高い国際性</li> <li>・専門以外の分野の幅広い知識</li> <li>・物事を俯瞰し本質を見抜く力</li> <li>・自ら課題を発見し解決に挑む力</li> <li>・独創的な能力</li> <li>・チームのマネージメント力</li> <li>・企画立案、関係者との調整、統率する能力</li> <li>・他者と協働する力</li> </ul>	<p>問 7</p>	<p><b>【4. プログラムの有効性】</b> このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせるのに、どの程度有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な専門的知識・研究能力</li> <li>・高い国際性</li> <li>・専門以外の分野の幅広い知識</li> <li>・物事を俯瞰し本質を見抜く力</li> <li>・自ら課題を発見し解決に挑む力</li> <li>・独創的な能力</li> <li>・チームのマネージメント力</li> <li>・企画立案、関係者との調整、統率する能力</li> <li>・他者と協働する力</li> </ul>
<p>問 13</p>	<p><b>【8. プログラムへの評価】</b> 以下のような点について、どう考えていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムに参加する教員の間でプログラムについての理解が共有されている</li> <li>・多くの担当教員の協働によりプログラムが運営されている</li> <li>・指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、あなたがプログラムに参加することに協力的である</li> <li>・学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい</li> <li>・後輩にもこのプログラムを勧めたい</li> </ul>	<p>問 9</p>	<p><b>【6. プログラムに対する印象】</b> 以下の点について、どう考えられていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています</li> <li>・連携先機関と共通理念に基づいた教育が行われている</li> <li>・既存の研究科等や機関の枠を超え、博士課程前期・後期一貫した体系的な教育課程の編成による高度な研究を通じた組織的な教育が行われている</li> <li>・プログラムを通じて授与される学位の質保証が適切に行われている</li> <li>・多くの担当教員の協働によりプログラムが運営されている</li> <li>・プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である</li> <li>・大学の執行部が、プログラムの目的を理解し、協力的である</li> <li>・優秀な学生が多数入学している</li> <li>・今後優秀な学生をより多く獲得できる</li> <li>・優秀な社会人の博士学位の取得促進が行われている</li> <li>・学生はプログラムの意図を良く理解している</li> <li>・学生にとって、将来の進路が明確になっている</li> <li>・学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す見込みがある</li> <li>・このプログラムによって、大学院制度の改善に大きな示唆が得られている</li> <li>・このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある</li> <li>・これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい</li> </ul>
<p>問 14</p>	<p><b>【9. プログラムの効果・負担】</b> 以下のような点について、どう考えていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた（得られそうである）</li> <li>・所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている</li> <li>・所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えている</li> <li>・修了後の進路に不安がない</li> </ul>	<p>問 11</p>	<p><b>【8. 学生への効果・負担】</b> 以下の点について、どう考えられていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる（得られそうである）</li> <li>・学生にとって、所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている</li> <li>・プログラムに参画している学生は所属研究室において専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えられる</li> <li>・学生の将来の進路に不安がない</li> </ul>

## 第1部 学生アンケート調査結果

### 1. プログラムへの参加動機（問7-1）

学生にこのプログラムへの参加動機について、あてはまるもの全て（図1）と、その中で最も直接的な動機に近いもの（図2）について聞いている。

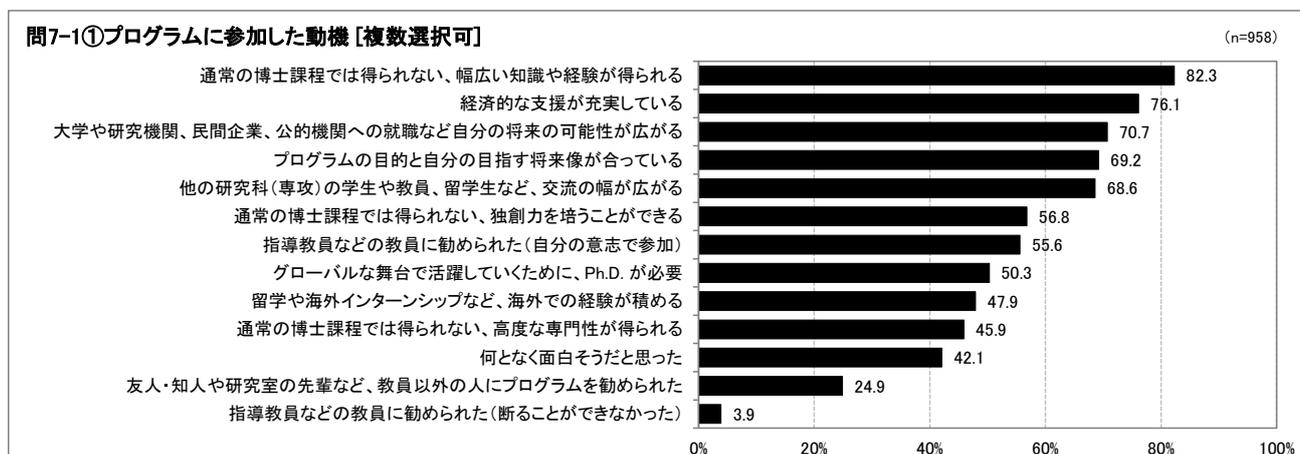


図1 プログラムへの参加動機（複数選択可）(n=958)

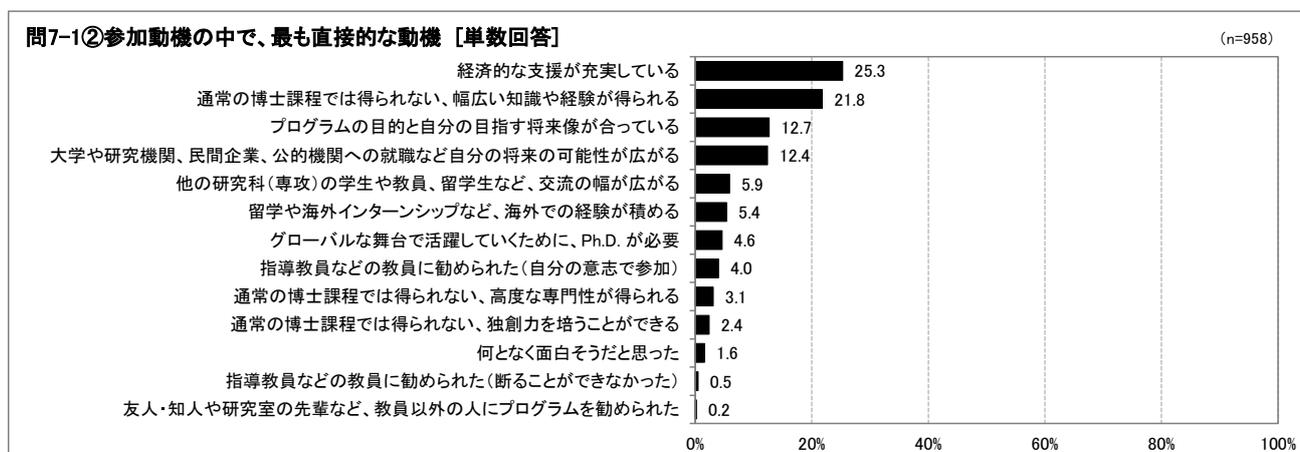


図2 プログラムへの参加動機（単数回答）(n=958)

## 2. プログラムがなかった場合の最終学位（問7-2）

学生にこのプログラムがなかった場合、どの最終学位を選択していたかについて聞いている。（図3）

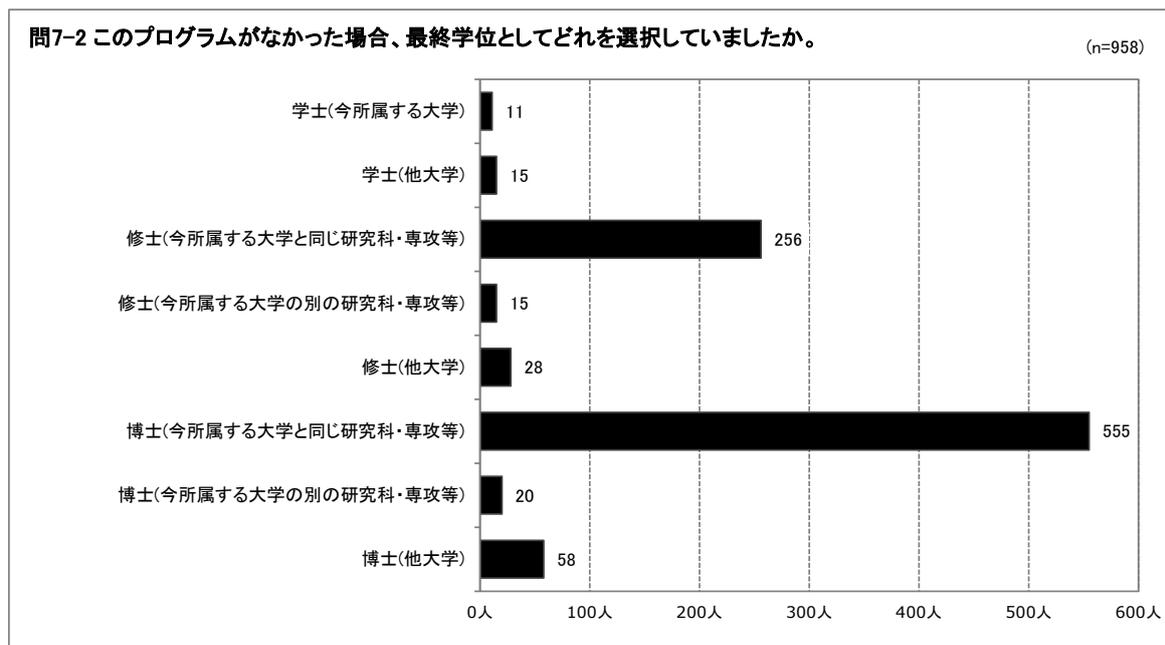


図3 プログラムがなかった場合の最終学位 (n=958)

### 3. プログラムに対する感想（問8）

学生にこのプログラムをどのように評価するか感想を聞いている。（図4）

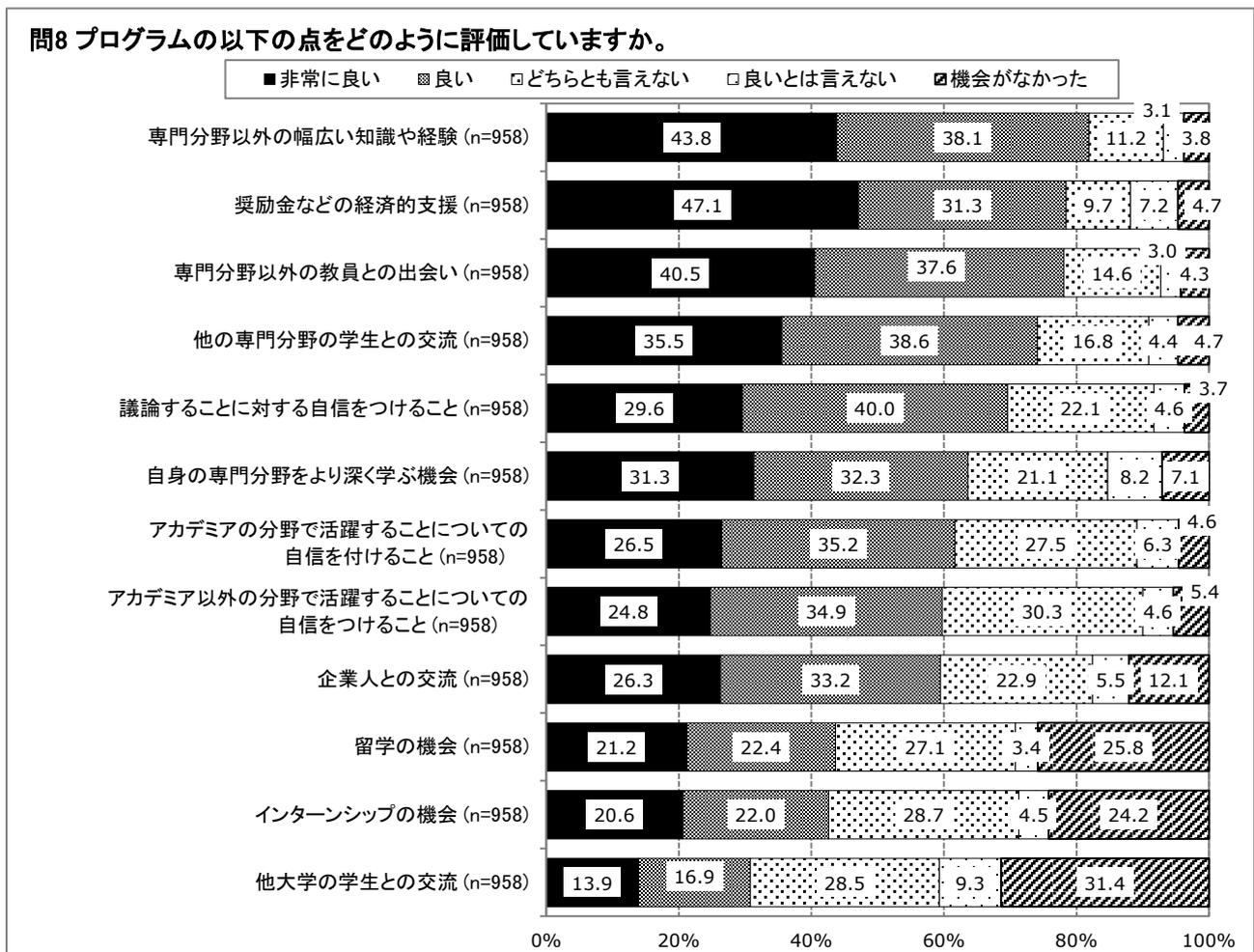


図4 プログラムに対する感想

#### 4. プログラムで受けた指導（問10）

学生にこのプログラムについて、どのような指導をどの程度受けたか（図5）、また受けた指導は、それが有効であったか（図6）、について聞いている。

#### 指導の内容

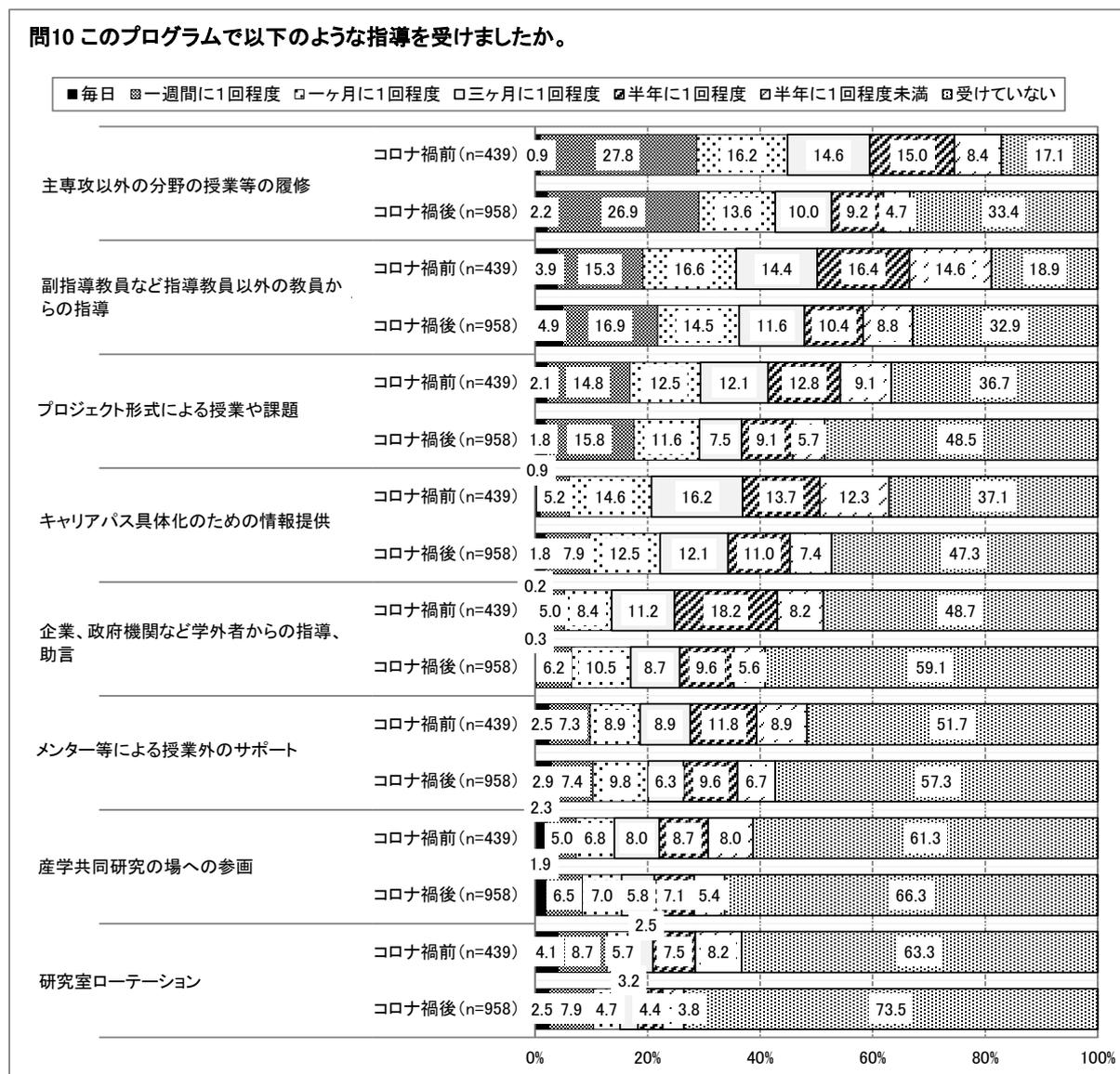


図5 プログラムで受けた指導（コロナ禍前 n=439、コロナ禍後 n=958）

## 受けた指導の有効性

<「毎日」～「半年に1回程度未満」を選択した場合のみ回答>

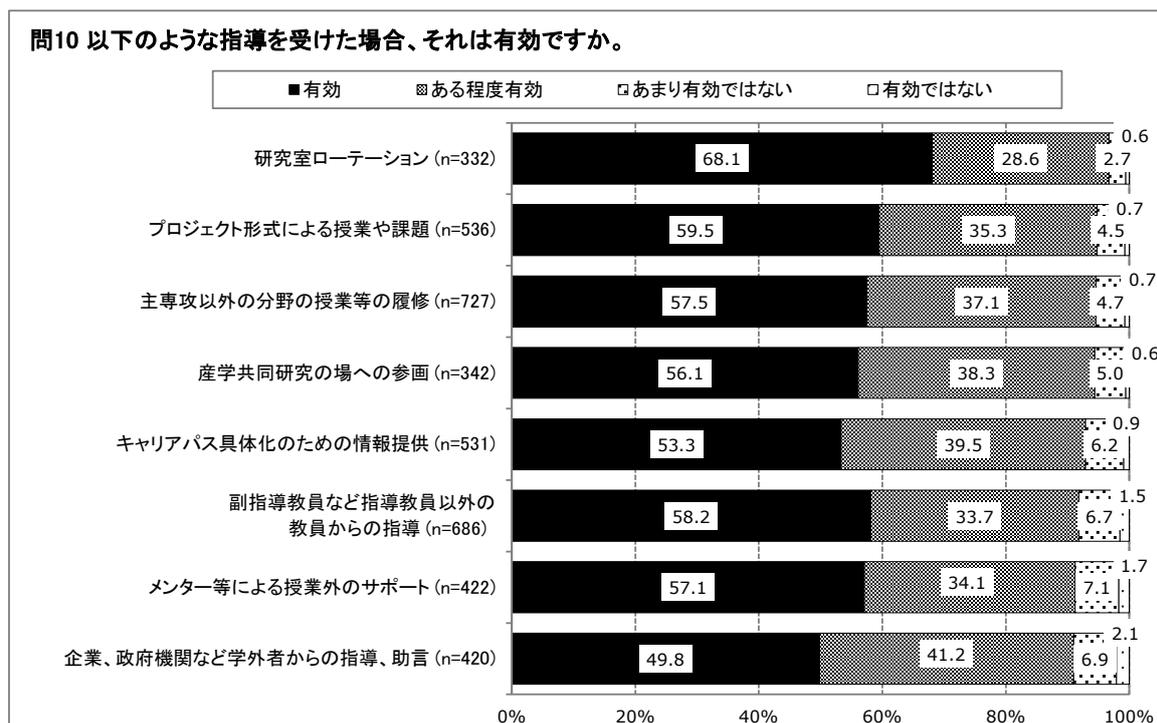


図6 指導を受けた場合の有効性

## 5. 環境の整備と有効性（問11A）

学生に研究やプログラムの活動に専念するためにどのような環境が整備され経験しているか（図7）、それが有効に機能しているか（図8）、について聞いている。

### プログラムで整備された環境

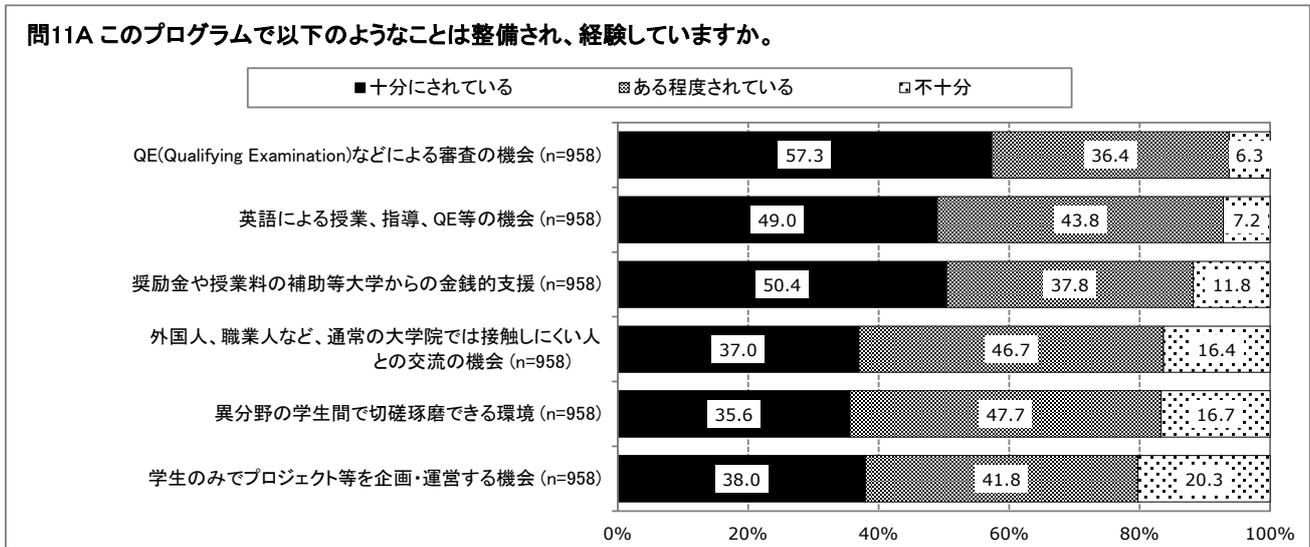


図7 プログラムで整備された環境 (n=958)

### 環境の有効性

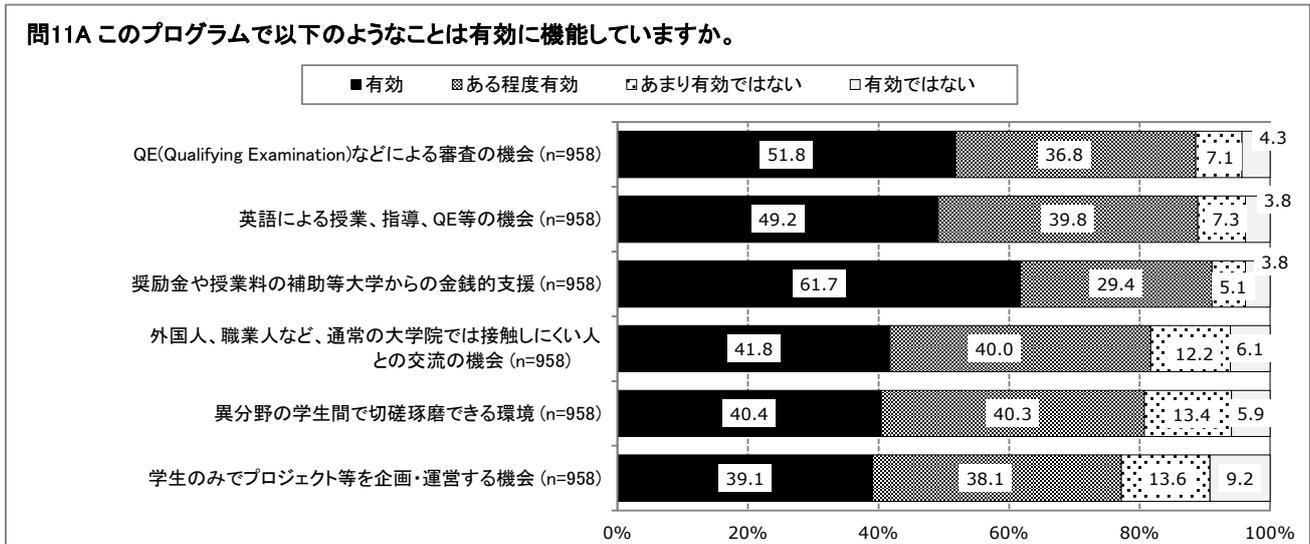


図8 整備された環境の有効性 (n=958)

## 6. 経験の有無と有効性（問11B）

プログラムで用意された活動に参加したか（図9）、それが有効に機能しているか（図10）について聞いている。

### プログラムでの経験

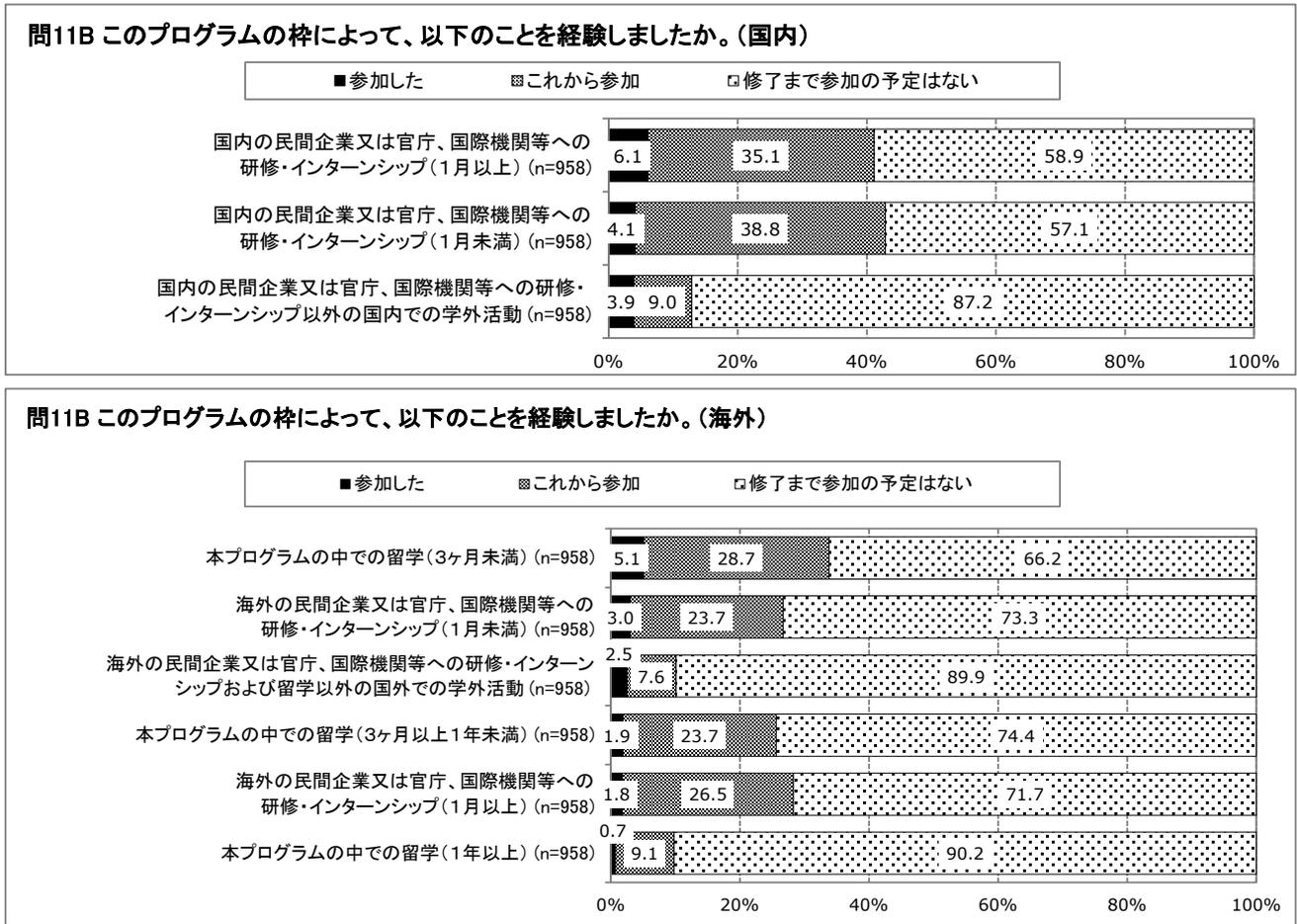


図9 プログラムでの経験 (n=958)

## 経験の有効性

<「参加した」を選択した場合のみ回答>

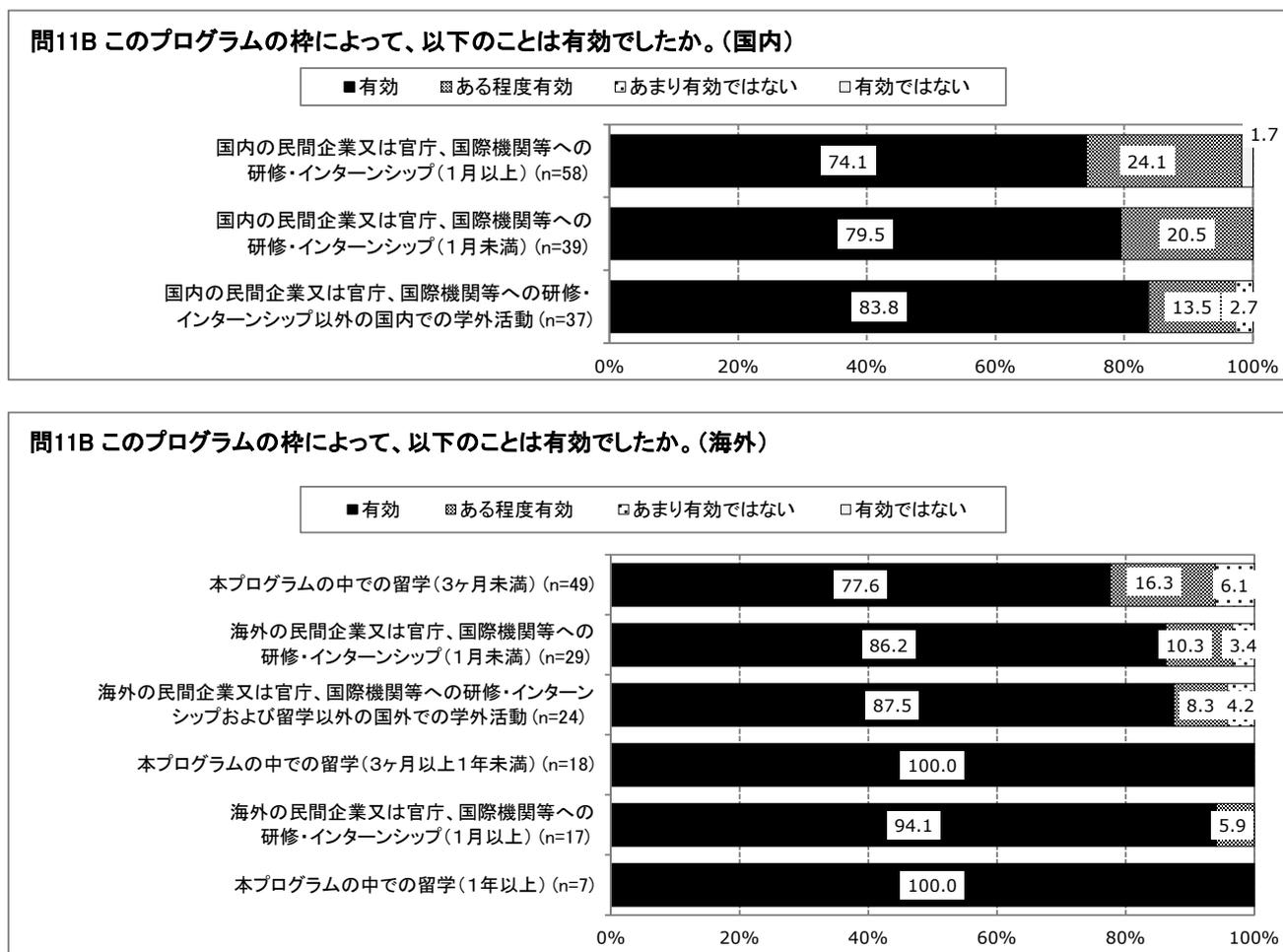


図 10 プログラムでの経験の有効性

## 7. 身に付いた能力（問12）

学生にプログラムに参加することにより身に付いた能力（図11）を聞いている。

### 身に付いた能力

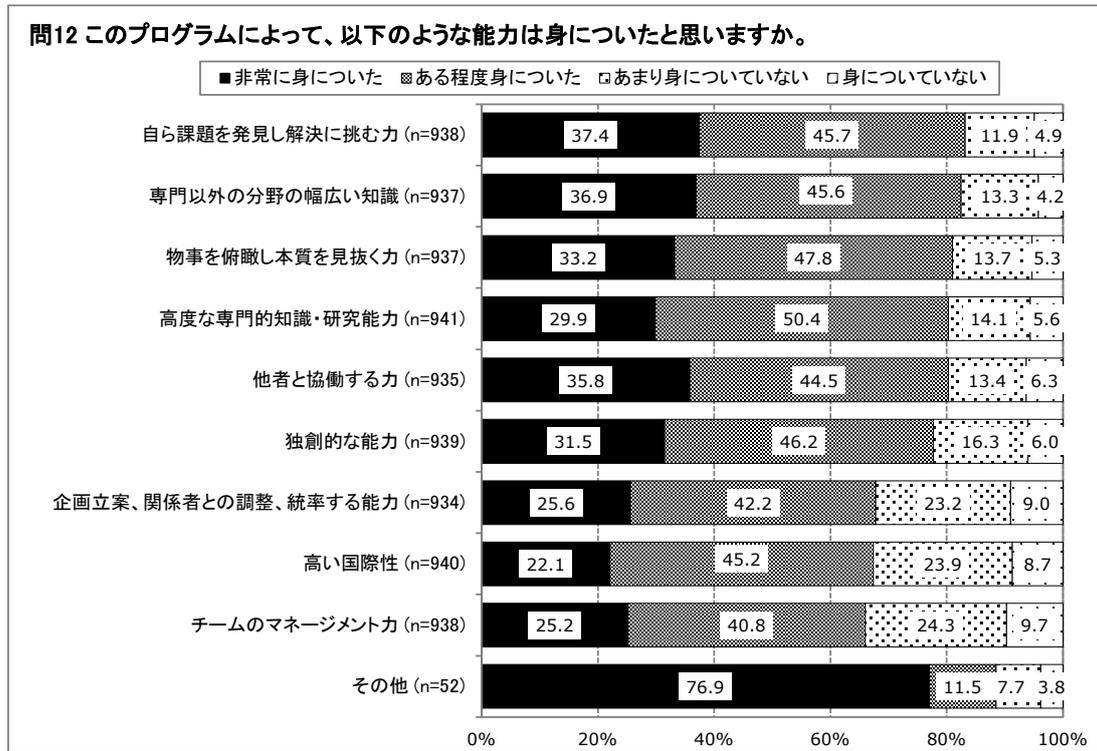


図11 プログラムによって身に付いた能力

## 8. プログラムへの評価（問13）

学生にプログラムに実際に参加している教員や、プログラムに参加していない周囲の教員等のプログラムへの理解や、プログラムそのものに対する印象を聞いている。（図12）

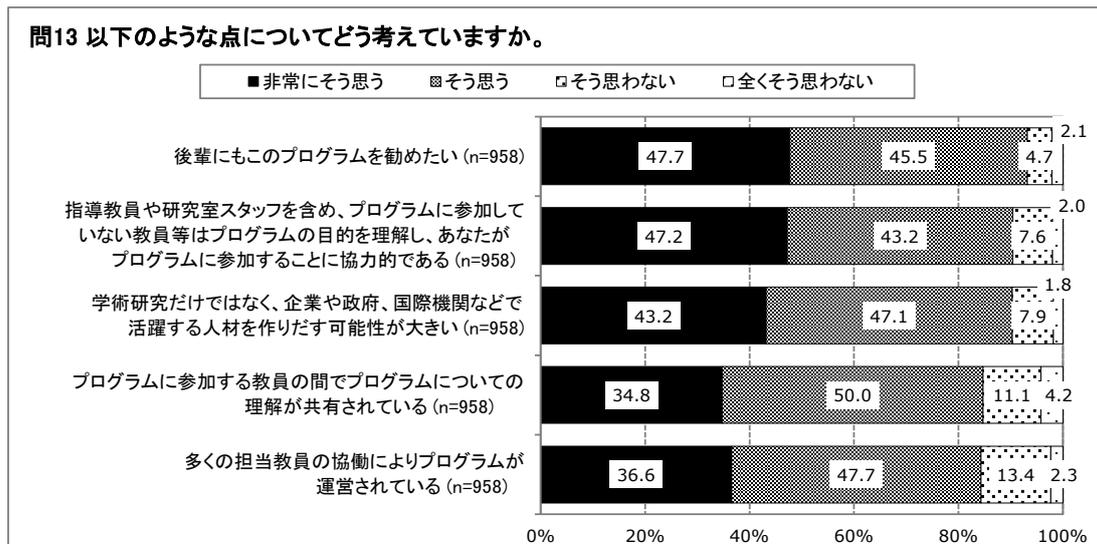


図12 プログラムへの評価 (n=958)

## 9. プログラムの効果・負担（問14）

学生にプログラム参加による研究面やキャリア面での効果、また負担について聞いている（図13）。

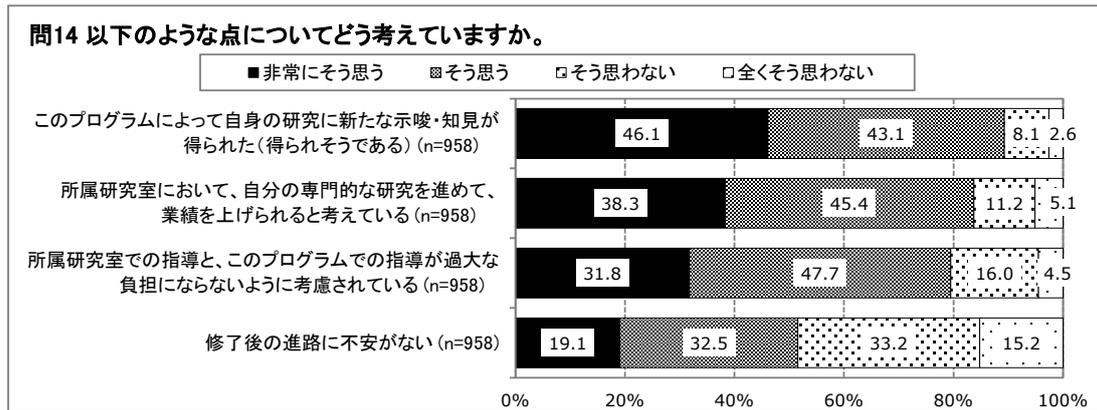


図13 プログラムの効果・負担 (n=958)

## 10. 修了後の進路（問15）

学生の進路について、入学時、アンケート回答時点（現在）の希望および決定した進路について聞いている（図14～図17）。

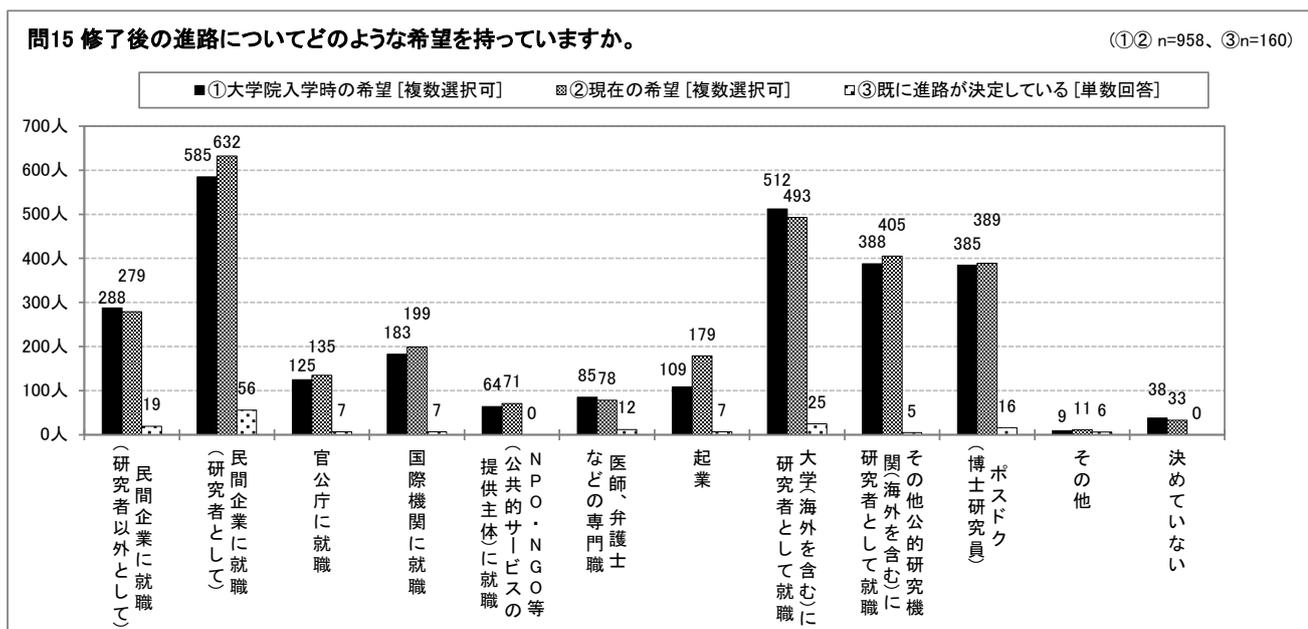


図14 ①大学院入学時、②現在の希望、③進路決定済み比較 (①②n=958、③n=160)

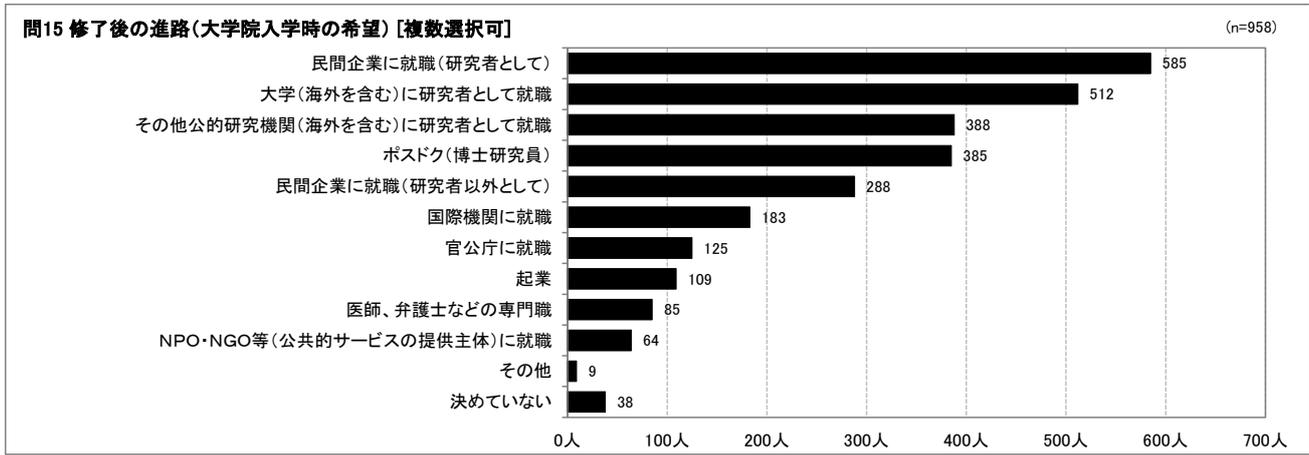


図 15 大学院入学時の修了後の進路の希望 (n=958)

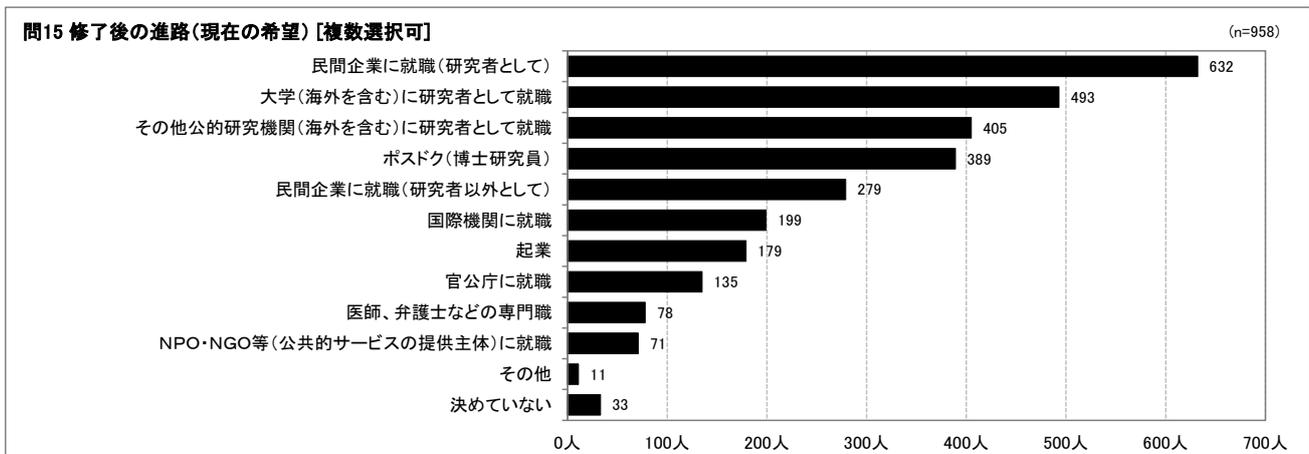


図 16 アンケート回答時点での修了後の進路の希望 (n=958)

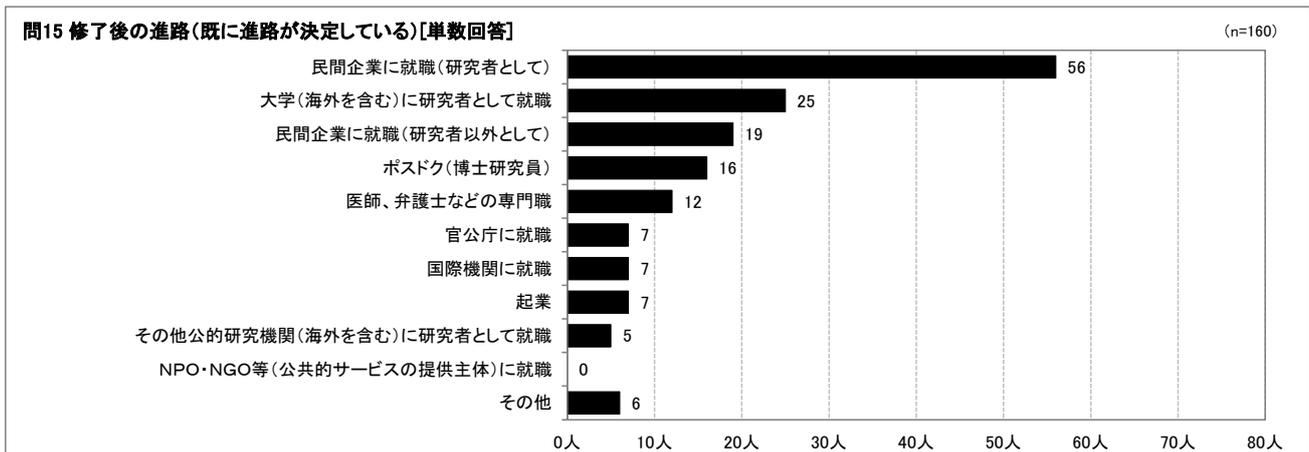
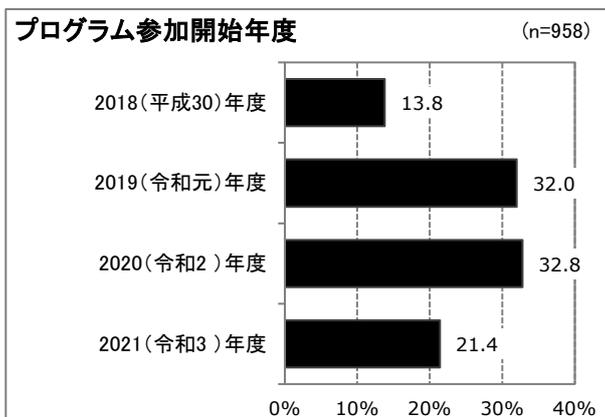
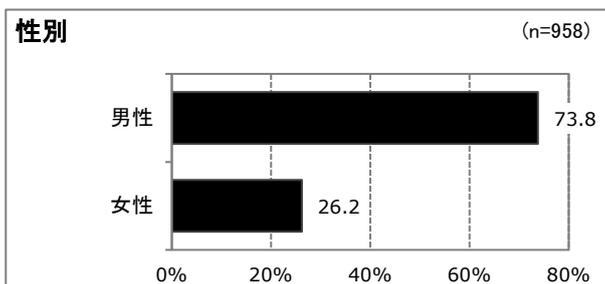
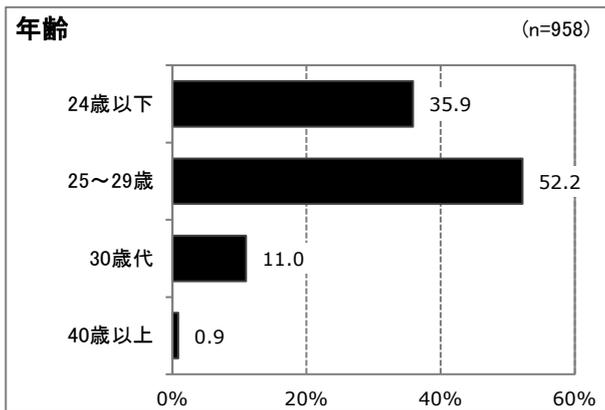


図 17 既に決定している進路 (n=160)

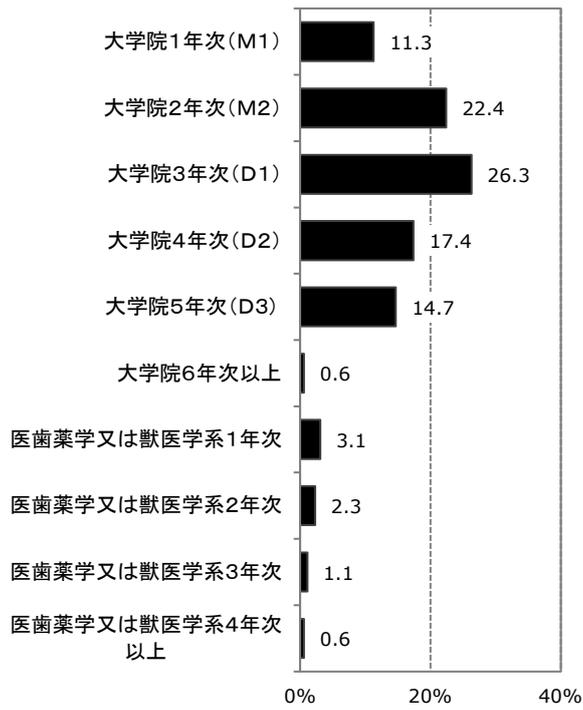
## 11. 学生の属性（問2, 3, 4, 5）

本項目では、アンケートを回答した学生の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。



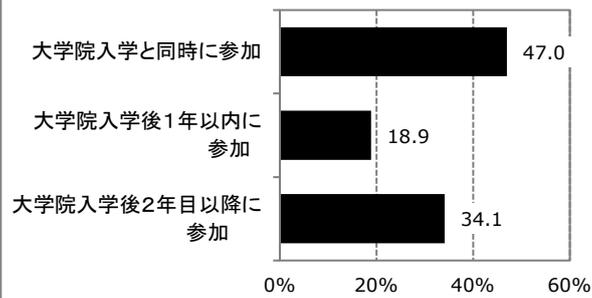
### 現在の学年

(n=958)



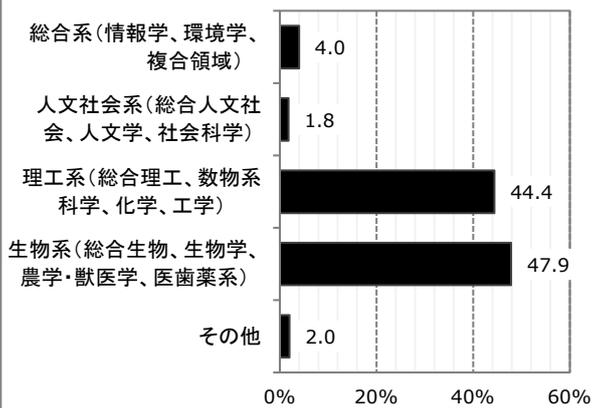
### プログラム参加時期

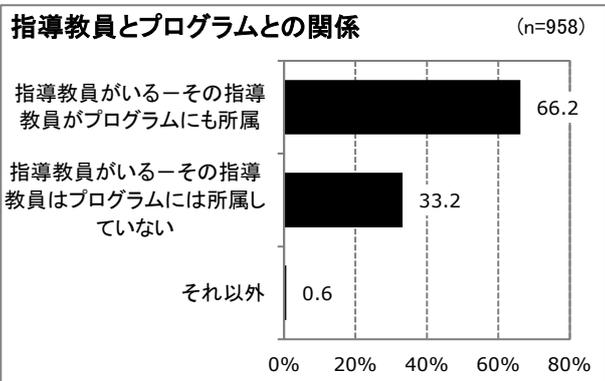
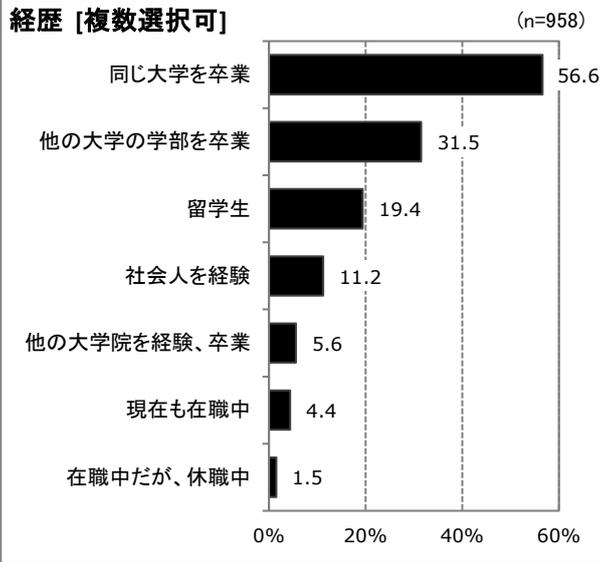
(n=958)



### 学位論文執筆予定分野

(n=958)





## 12. プログラム情報の獲得方法（問19）

本項目では、プログラムをどのようにして知ったかについて、回答を選択した人数を掲載する。なお、本項目は任意回答としている。（図18）

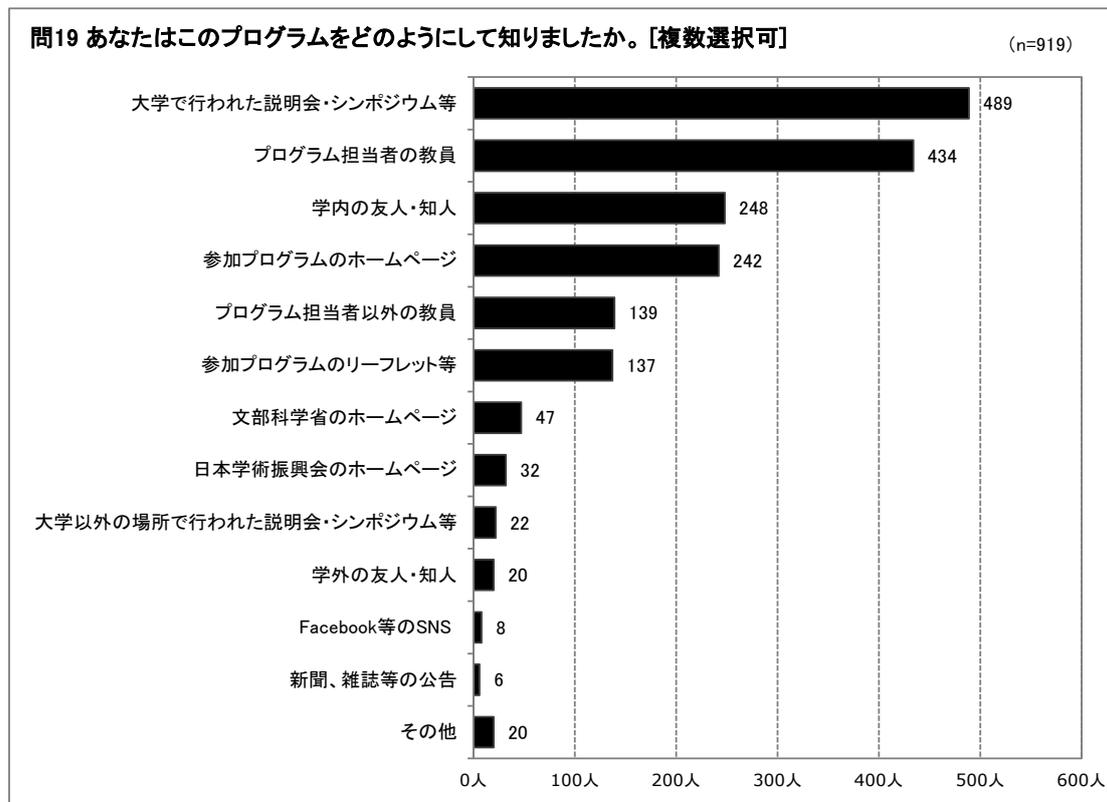


図18 プログラム情報の獲得方法（n=919）

## 第2部 プログラム担当者アンケート調査結果

### 1. プログラムへの関与（問3）

学位プログラムに属する学生の研究指導、学位審査等の質保証を担当し、あるいは履修支援、キャリア形成などを総括しプログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う常勤または非常勤の者（以下、プログラム担当者）に対し、本事業への申請時に想定されていたエフォートと、令和2年度の実績としてのエフォートを聞いている（図19）。

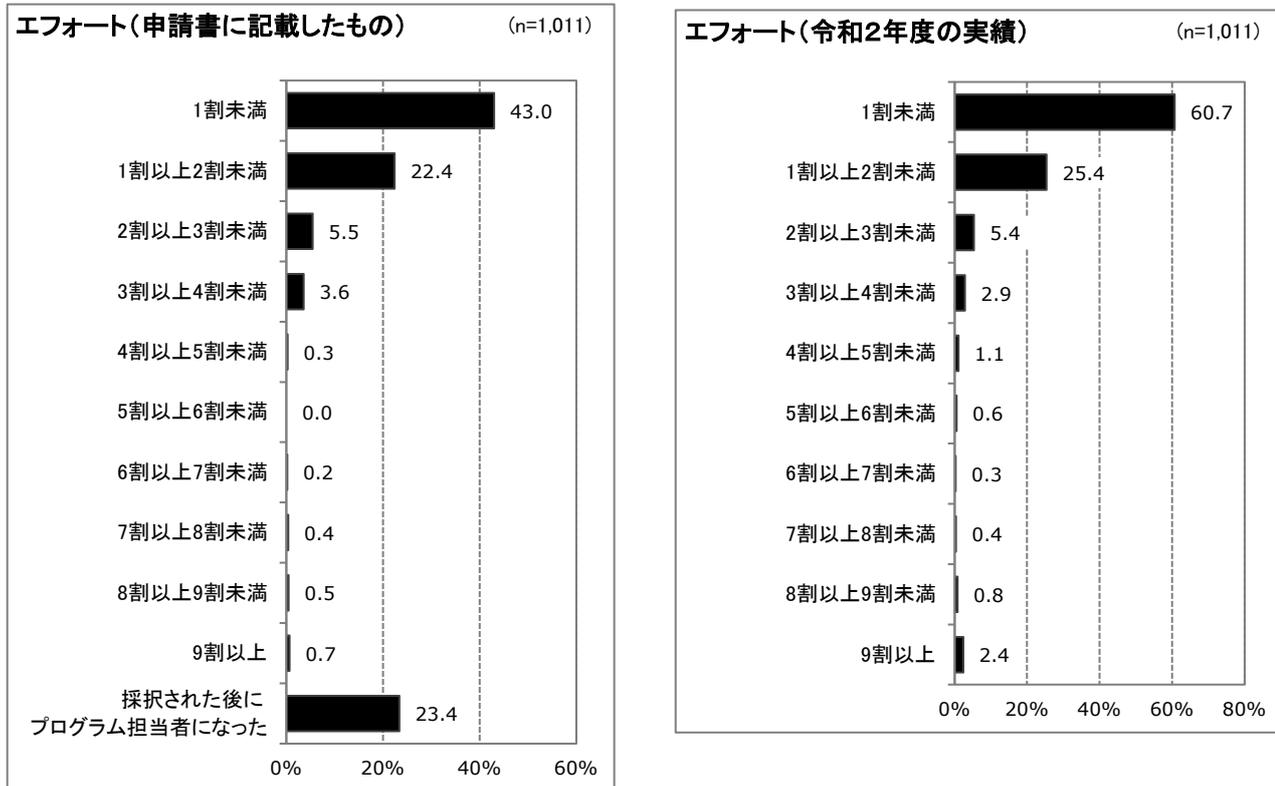


図19 申請時の想定と令和2年度実績のエフォート (n=1,011)

## 2. 指導の内容（問5）

プログラム担当者に対し、どのような指導を行っているか（図20）、また行っている場合はその有効性について聞いている（図21）。

### 行っている指導

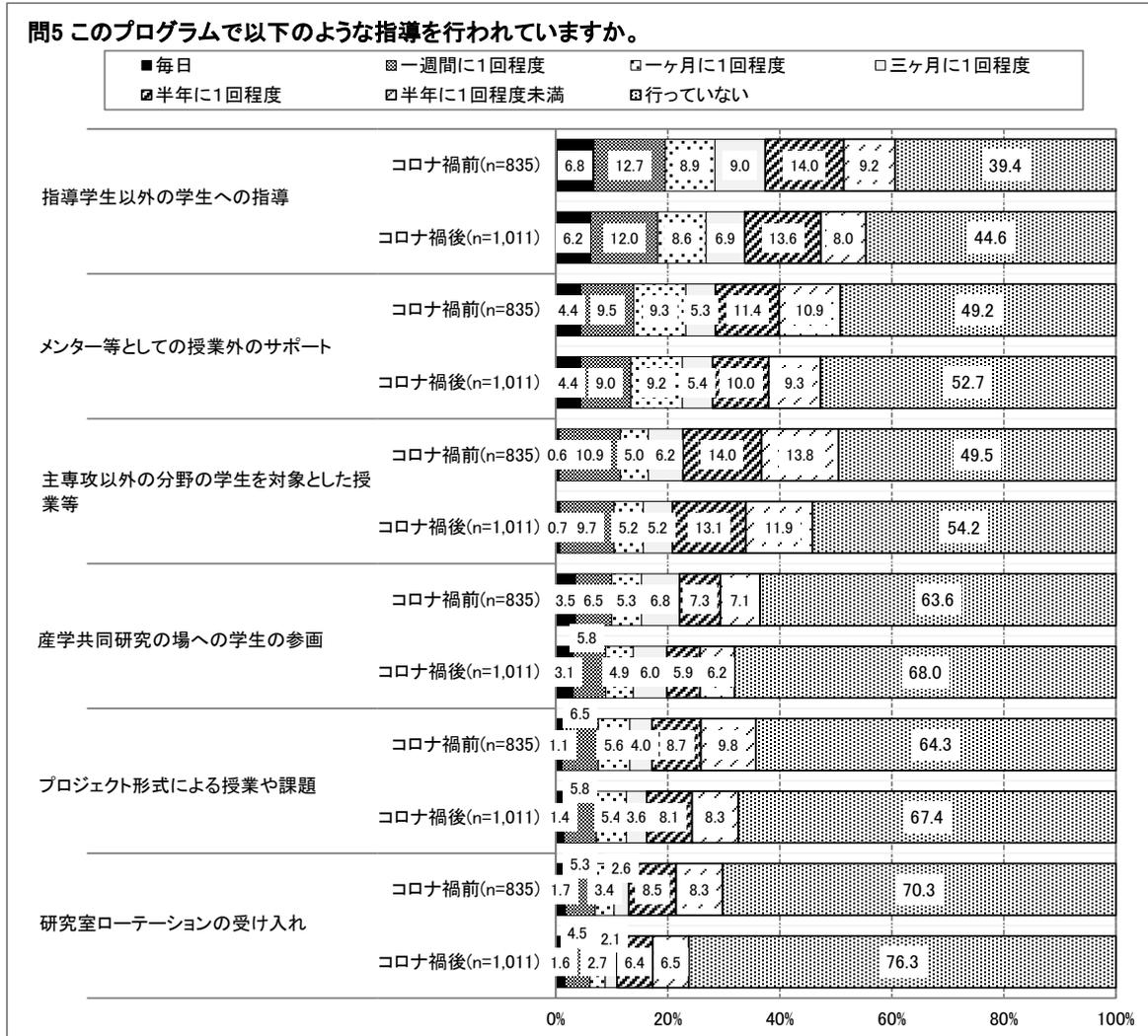


図20 プログラムで担当している指導等（コロナ禍前 n=835、コロナ禍後 n=1,011）

## 指導の有効性

<「よく行っている」「行っている」を選択した場合のみ回答>

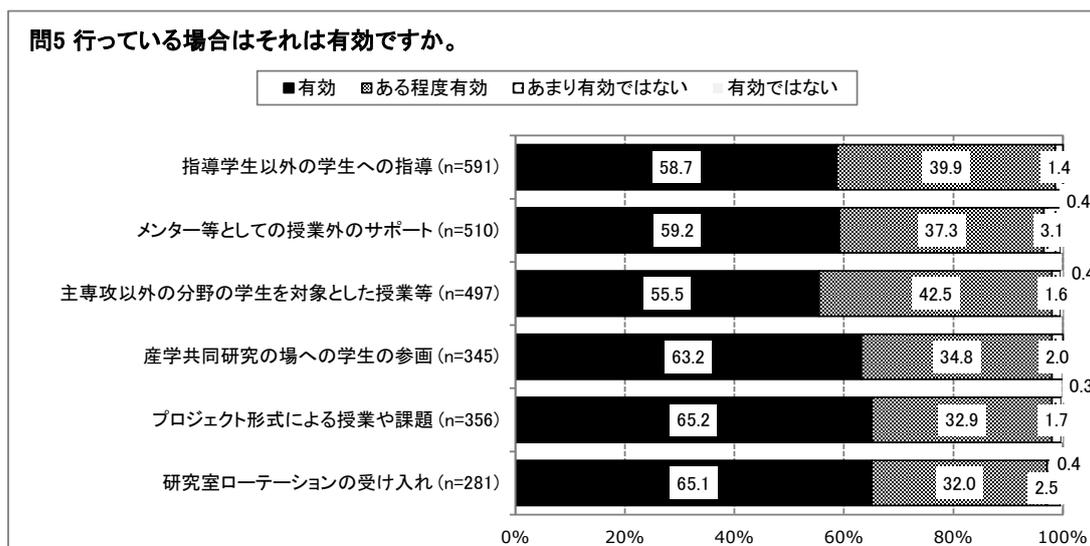


図 21 指導の有効性

### 3. 実施されたプログラムと整備された環境（問6）

本プログラム内で学生のために実施されたプログラムや整備された環境について、それが十分実施（整備）されていると感じているか（図22）、また「されている」を選択した場合にはそれが有効と考えているかについて聞いている（図23）。

#### プログラムの実施及び環境の整備状況

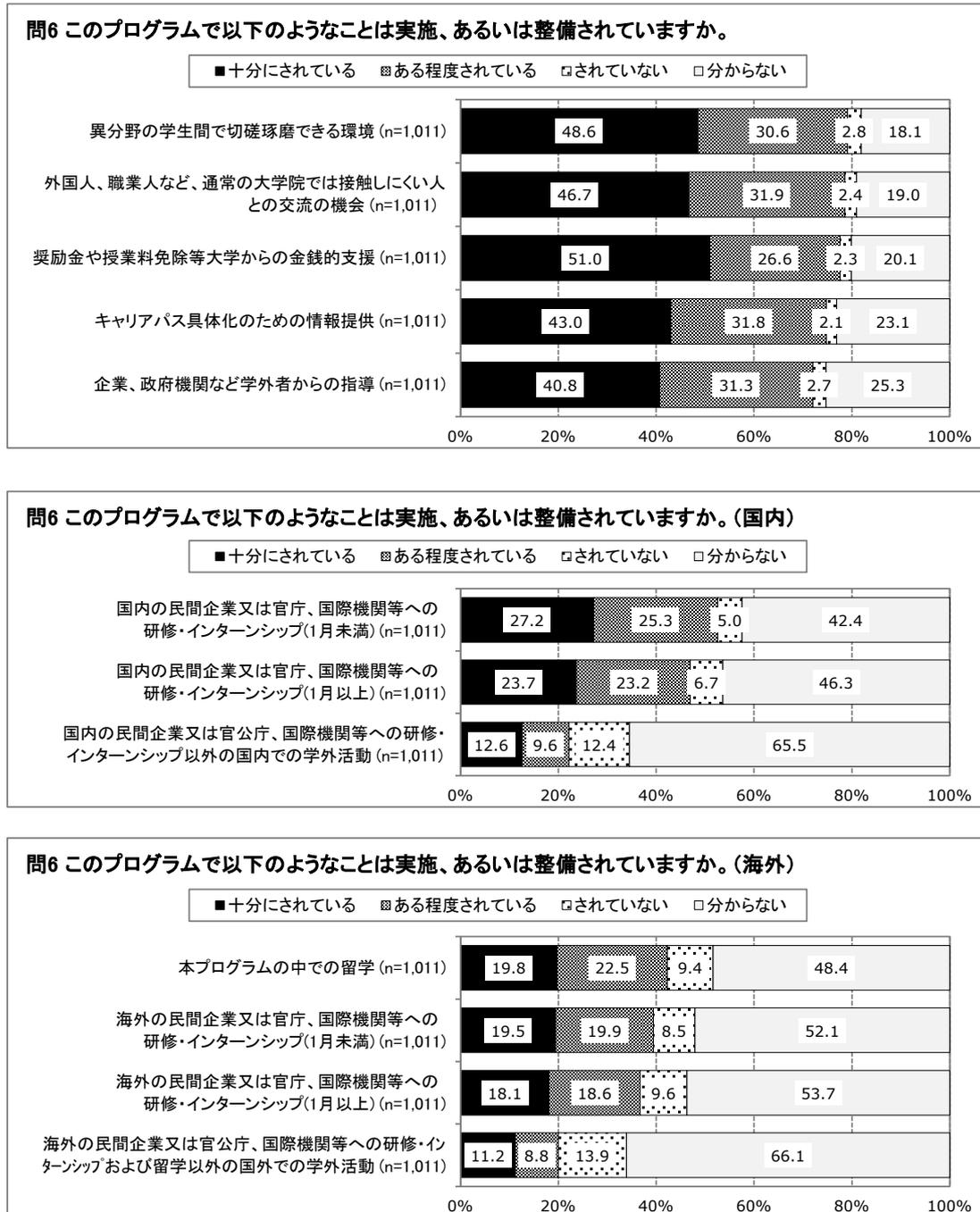


図22 プログラムの実施や環境の整備状況 (n=1,011)

## 実施されたプログラムと整備された環境の有効性

<「分からない」以外を選択した場合のみ回答>

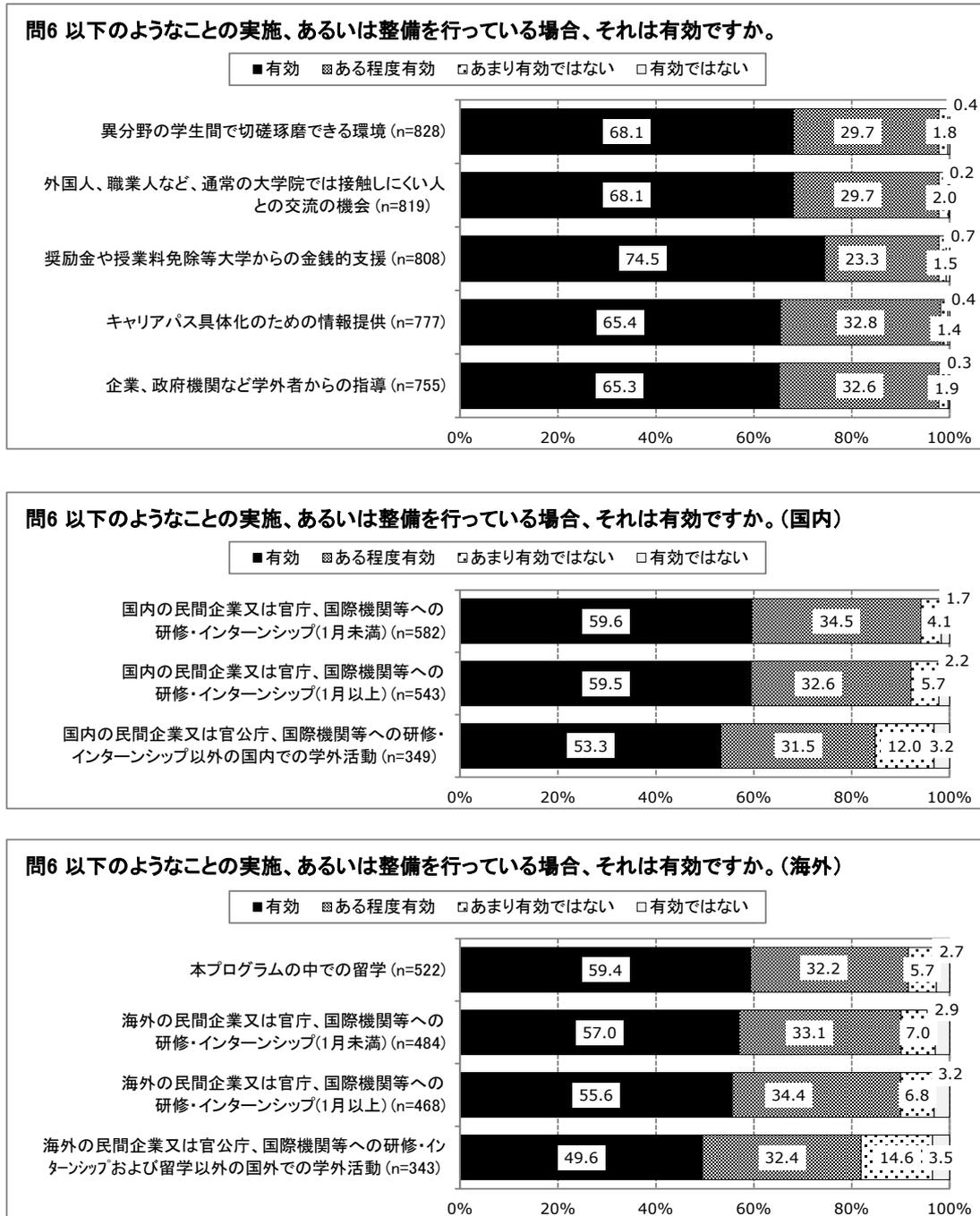


図 23 実施されたプログラムと整備された環境の有効性

#### 4. プログラムの有効性（問7）

各プログラムに参画することにより、学生に各能力を身に付けさせることができるか、その有効性を聞いて  
いる（図24）。

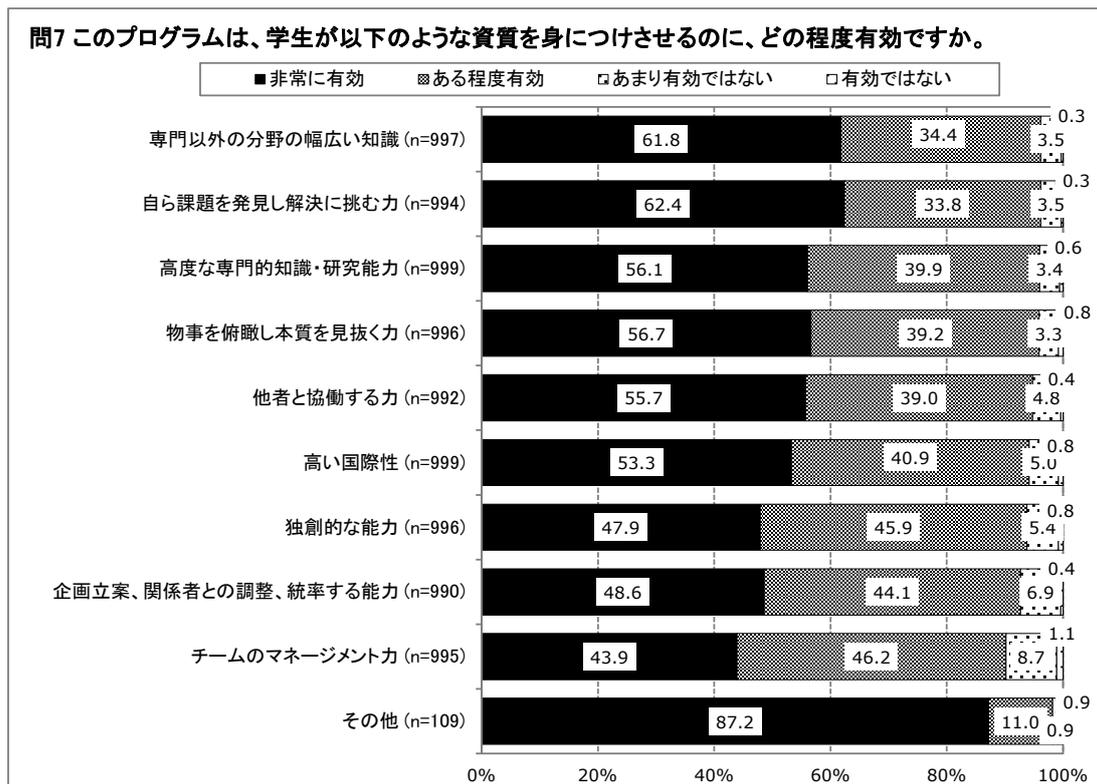


図24 学生へ能力を身に付けさせるためのプログラムの有効性

#### 5. 運営・管理（問8）

プログラムの運営・管理の面についての印象をプログラム担当者へ聞いている（図25）。

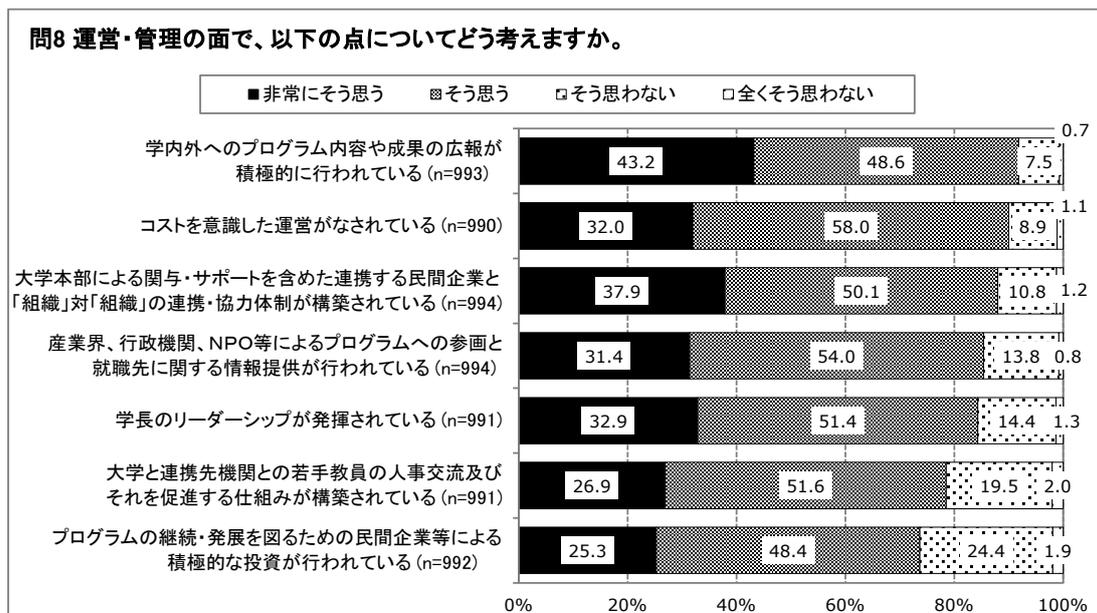


図25 運営・管理の面での印象

## 6. プログラムに対する印象（問9）

プログラムに参加している学生やプログラムの将来展望などを含めた、プログラムの印象を聞いている（図26）。

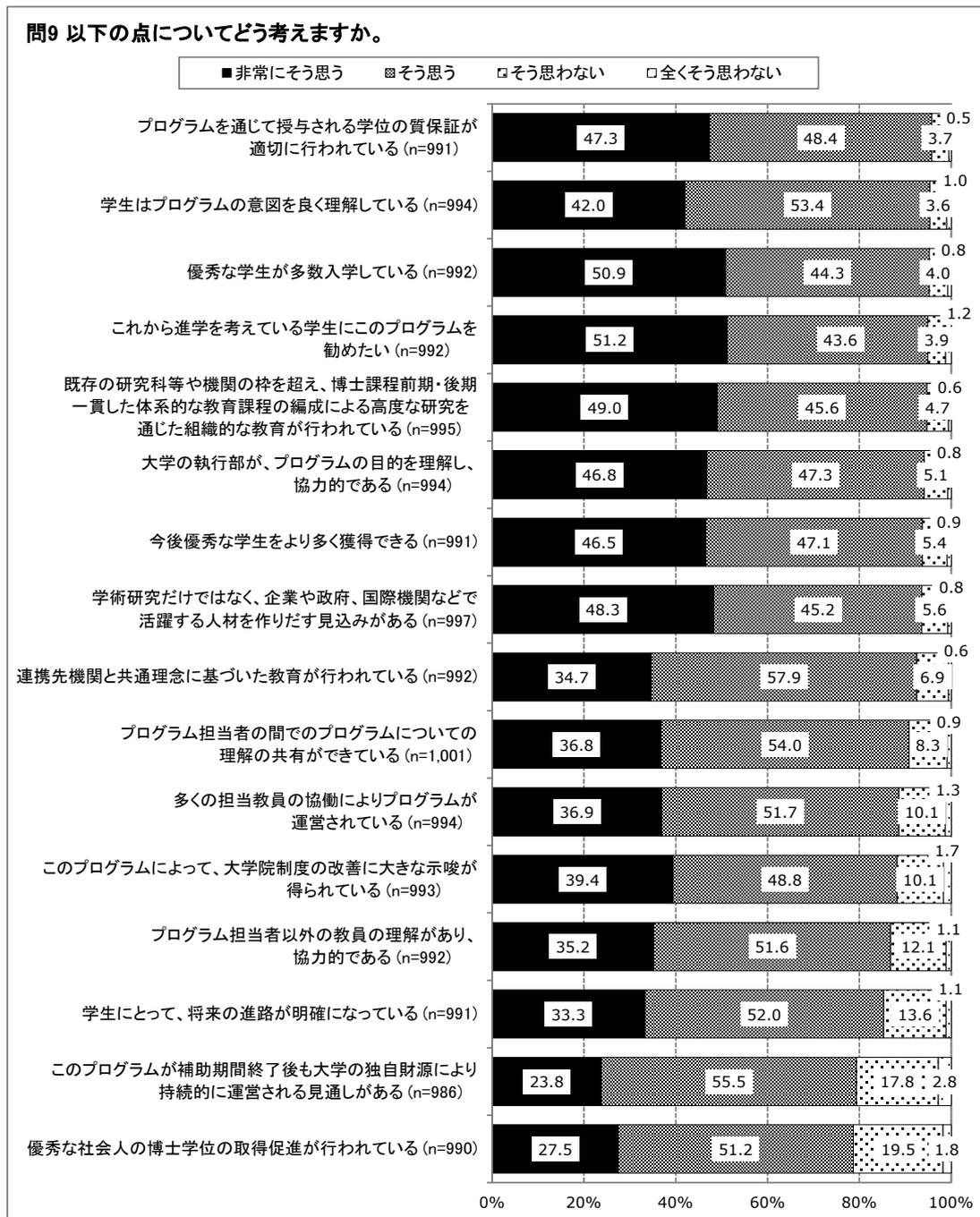


図 26 プログラムに対する印象

## 7. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10）

プログラムで担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケートを行っているか聞いている（図27）。

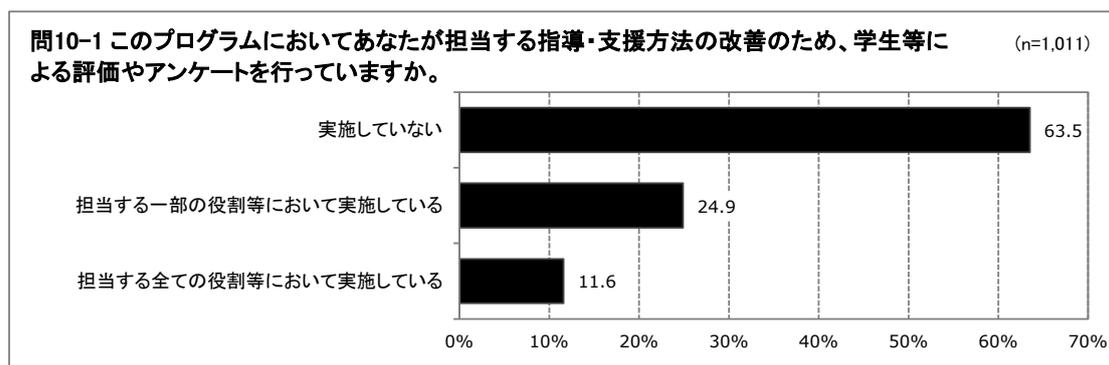


図27 指導・支援の改善のための評価等の実施 (n=1,011)

## 8. 学生への効果・負担（問11）

学生への効果や負担等について聞いている（図28）。

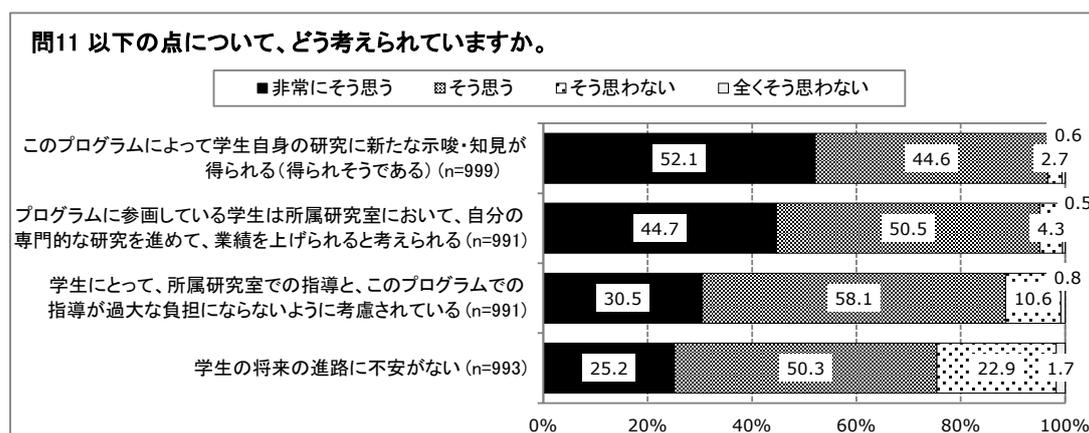
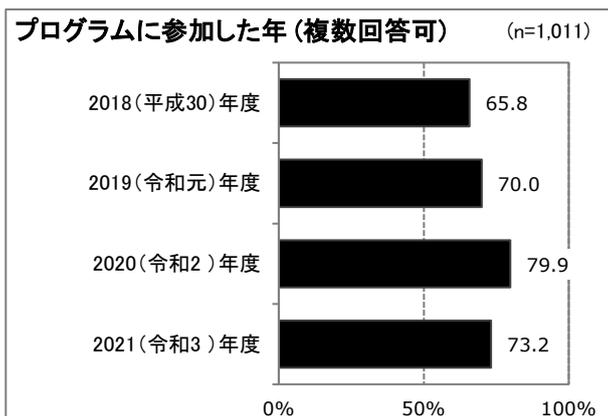
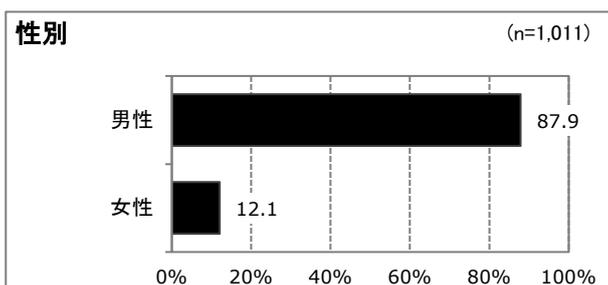
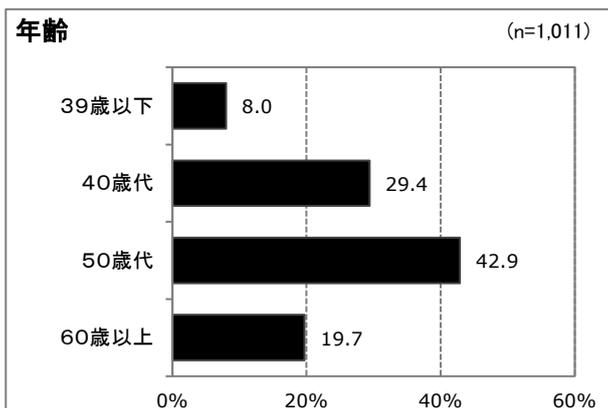


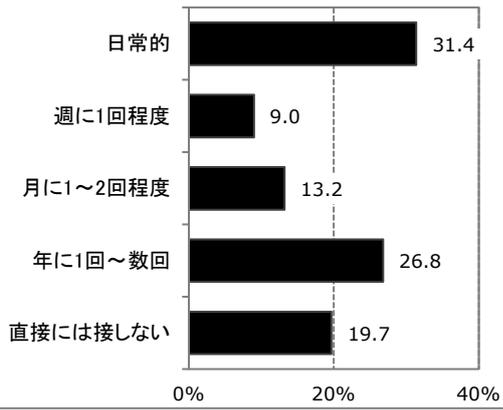
図28 学生への効果・負担等 (n=1,011)

## 9. 参加教員の属性（問2，3，4）

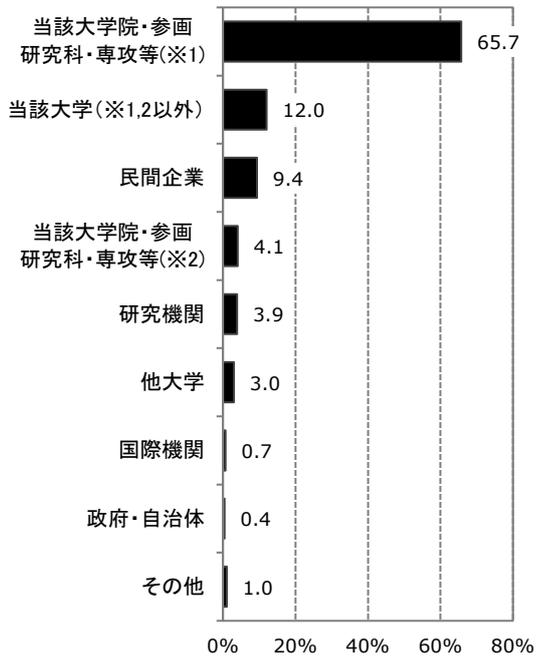
本項目ではアンケートに回答したプログラム担当者の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。



**本プログラムの学生に直接に接する頻度** (n=1,011)



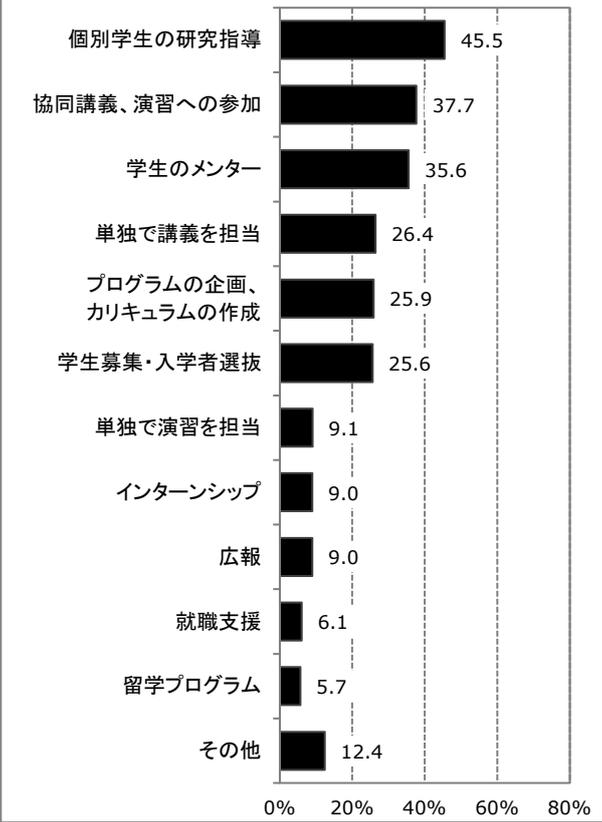
**所属(本務)** (n=1,011)



※1: プログラムの経費により雇用されている者を除く  
 ※2: プログラムの経費による雇用

プログラム内の担当（複数回答可）

(n=1,011)



## 附録A サンプルと回答者数

	機関名	プログラム名称	学生			プログラム担当者		
			対象者	回答者	回答率	対象者	回答者	回答率
1801	北海道大学	One Healthフロンティア卓越大学院	62	57	91.9%	49	48	98.0%
1802	東北大学	未来型医療創造卓越大学院プログラム	47	46	97.9%	88	77	87.5%
1803	東北大学	人工知能エレクトロニクス卓越大学院プログラム	65	64	98.5%	66	63	95.5%
1804	筑波大学	ヒューマニクス学位プログラム	37	34	91.9%	117	111	94.9%
1805	東京大学	生命科学技術 国際卓越大学院プログラム	162	160	98.8%	81	77	95.1%
1806	東京農工大学	「超スマート社会」を新産業創出とダイバーシティにより牽引する卓越リーダーの養成	54	51	94.4%	97	87	89.7%
1807	東京工業大学	「物質×情報=複素人材」育成を通じた持続可能社会の創造	69	68	98.6%	75	65	86.7%
1808	長岡技術科学大学	グローバル超実践ルートテクノロジープログラム	35	34	97.1%	63	51	81.0%
1809	名古屋大学	トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム	121	120	99.2%	64	63	98.4%
1810	名古屋大学	未来エレクトロニクス創成加速DII協働大学院プログラム	50	48	96.0%	98	90	91.8%
1811	京都大学	先端光・電子デバイス創成学	61	52	85.2%	36	33	91.7%
1812	大阪大学	生命医科学の社会実装を推進する卓越人材の涵養	67	62	92.5%	109	92	84.4%
1813	広島大学	ゲノム編集先端人材育成プログラム	47	43	91.5%	56	46	82.1%
1814	長崎大学	世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム	63	49	77.8%	76	58	76.3%
1815	早稲田大学	パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム	77	70	90.9%	57	50	87.7%
卓越大学院プログラム中間評価総計			1017	958	<b>94.2%</b>	1132	1011	<b>89.3%</b>

卓越大学院プログラム  
平成30年度採択プログラム中間評価  
**学生アンケート調査**

- この調査は卓越大学院プログラム（注）の平成30年度採択プログラムの中間評価の一環として実施するものです。採択されたプログラムに参加する皆さん（大学により各プログラムに選抜された学生）にご意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。

注 <卓越大学院プログラムとは>

「卓越大学院プログラム(WISE Program : Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education)」(以下「本事業」という。)は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的とする事業です。

本事業により、これまで行われてきた世界的課題を解決するグローバルリーダーの育成に加え、今後はさらに、世界の学術を牽引する卓越した研究者や、知を社会に実装することを主導する起業家、イノベーションをリードする企業人、国内外のパブリック・セクターにおいて政策立案をリードする人材など、俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性を備え、大学や研究機関、民間企業、公的機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材、すなわち、高度な「知のプロフェッショナル」をあらゆるセクターに対し輩出することが期待されています。

# 参加されているプログラムと、御自身についてうかがいます

## I. 回答者の属性

問1 参加している大学・プログラム名・プログラムの設定する領域について、以下に表示されている内容を確認してください。

全体

問2 年齢、性別について選択してください。

年齢 (n=958)	1. 24歳以下	2. 25~29歳	3. 30歳代	4. 40歳以上
	344人 35.9%	500人 52.2%	105人 11%	9人 0.9%

性別 (n=958)	1. 女性	2. 男性
	251人 26.2%	707人 73.8%

問3 プログラムとの関係

プログラムに参加した年 (n=958)	1. 2018 (平成30) 年度	2. 2019 (令和元) 年度	3. 2020 (令和2) 年度	4. 2021 (令和3) 年度
	132人 13.8%	307人 32%	314人 32.8%	205人 21.4%

現在の学年 (n=958)	1. 大学院1年次 (M1)	2. 大学院2年次 (M2)	3. 大学院3年次 (D1)	4. 大学院4年次 (D2)	5. 大学院5年次 (D3)
	108人 11.3%	215人 22.4%	252人 26.3%	167人 17.4%	141人 14.7%
	6. 大学院6年次以上	7. 医歯薬学又は獣医学系1年次	8. 医歯薬学又は獣医学系2年次	9. 医歯薬学又は獣医学系3年次	10. 医歯薬学又は獣医学系4年次以上
	6人 0.6%	30人 3.1%	22人 2.3%	11人 1.1%	6人 0.6%

入学時からこのプログラムに参加したか (n=958)	1. 大学院入学と同時に参加	2. 大学院入学後1年以内に参加	3. 大学院入学後2年目以降に参加
	450人 47%	181人 18.9%	327人 34.1%

学位論文の執筆を予定している分野 (n=958)	1. 総合系 (情報学、環境学、複合領域)	2. 人文社会系 (総合人文社会、人文学、社会科学)	3. 理工系 (総合理工、数物系科学、化学、工学)	4. 生物系 (総合生物、生物学、農学・獣医学、医歯薬系)	5. ほか
	38人 4%	17人 1.8%	425人 44.4%	459人 47.9%	19人 2%

問4 経歴についてあてはまるものすべてにチェックしてください。(n=958)

1	同じ大学を卒業	542人 56.6%
2	留学生	186人 19.4%
3	他の大学の学部を卒業	302人 31.5%
4	他の大学院を経験、卒業	54人 5.6%

5	社会人を経験	107人 11.2%
6	現在も在職中	42人 4.4%
7	在職中だが、休職中	14人 1.5%

問5 指導教員(専門分野における研究指導を主に行う教員1名)と、プログラムとの関係(あてはまるものに○)(n=958)

1	指導教員がいる — その指導教員がプログラムにも所属	634人 66.2%
2	指導教員がいる — その指導教員はプログラムには所属していない	318人 33.2%
3	それ以外	6人 0.6%

↓  
具体的に書いてください

## Ⅱ. 事業趣旨の理解

問6 本事業の目的(1ページ「卓越大学院プログラムとは」を参照)に沿って、大学はプログラムを実施していますが、本事業の趣旨を知っていましたか。(n=958)

1	知っていた	923人 96.3%
2	知らなかった	35人 3.7%

上記を選択した理由などについて自由に記述してください。

### Ⅲ. プログラムへの参加動機

問7-1 あなたがこのプログラムに参加した動機として、あてはまるもの全てにチェックしてください。また、その中で最も直接的な動機に近いもの1つに○をしてください。

	当てはまるもの 全てにチェック (n=958)	最も近いもの 1つに○ (n=958)
プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている	663人 69.2%	122人 12.7%
大学や研究機関、民間企業、公的機関への就職など自分の将来の可能性が広がる	677人 70.7%	119人 12.4%
通常の博士課程では得られない、幅広い知識や経験が得られる	788人 82.3%	209人 21.8%
通常の博士課程では得られない、独創力を培うことができる	544人 56.8%	23人 2.4%
通常の博士課程では得られない、高度な専門性が得られる	440人 45.9%	30人 3.1%
他の研究科（専攻）の学生や教員、留学生など、交流の幅が広がる	657人 68.6%	57人 5.9%
留学や海外インターンシップなど、海外での経験が積める	459人 47.9%	52人 5.4%
グローバルな舞台で活躍していくために、Ph.D.が必要	482人 50.3%	44人 4.6%
経済的な支援が充実している	729人 76.1%	242人 25.3%
友人・知人や研究室の先輩など、教員以外の人にプログラムを勧められた	239人 24.9%	2人 0.2%
指導教員などの教員に勧められた（自分の意志で参加）	533人 55.6%	38人 4%
指導教員などの教員に勧められた（断ることができなかった）	37人 3.9%	5人 0.5%
何となく面白そうだった	403人 42.1%	15人 1.6%

その他の理由がある場合や、上記を選択した理由などについて自由に記述してください。

#### IV. プログラムがなかった場合の経歴

問7-2 このプログラムがなかった場合、あなたの最終学位としてどれを選択していましたか。(n=958)

1	学士（今所属する大学と同じ）	11人 1.1%	5	修士（他大学）	28人 2.9%
2	学士（他大学）	15人 1.6%	6	博士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）	555人 57.9%
3	修士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）	256人 26.7%	7	博士（今所属する大学の別の研究科または専攻等）	20人 2.1%
4	修士（今所属する大学の別の研究科または専攻等）	15人 1.6%	8	博士（他大学）	58人 6.1%

#### V. プログラムの内容に対する評価

問8 プログラムの以下のような点をどのように評価されますか。

	非常に良い	良い	どちらとも言えない	良いとは言えない	機会がなかった
他の専門分野の学生との交流 (n=958)	340人 35.5%	370人 38.6%	161人 16.8%	42人 4.4%	45人 4.7%
他大学の学生との交流 (n=958)	133人 13.9%	162人 16.9%	273人 28.5%	89人 9.3%	301人 31.4%
専門分野以外の教員との出会い (n=958)	388人 40.5%	360人 37.6%	140人 14.6%	29人 3%	41人 4.3%
企業人との交流 (n=958)	252人 26.3%	318人 33.2%	219人 22.9%	53人 5.5%	116人 12.1%
専門分野以外の幅広い知識や経験 (n=958)	420人 43.8%	365人 38.1%	107人 11.2%	30人 3.1%	36人 3.8%
自身の専門分野をより深く学ぶ機会 (n=958)	300人 31.3%	309人 32.3%	202人 21.1%	79人 8.2%	68人 7.1%
奨励金などの経済的支援 (n=958)	451人 47.1%	300人 31.3%	93人 9.7%	69人 7.2%	45人 4.7%
議論することに対する自信をつけること (n=958)	284人 29.6%	383人 40%	212人 22.1%	44人 4.6%	35人 3.7%
アカデミアの分野で活躍することについての自信を付けること (n=958)	254人 26.5%	337人 35.2%	263人 27.5%	60人 6.3%	44人 4.6%
アカデミア以外の分野で活躍することについての自信をつけること (n=958)	238人 24.8%	334人 34.9%	290人 30.3%	44人 4.6%	52人 5.4%
インターンシップの機会 (n=958)	197人 20.6%	211人 22%	275人 28.7%	43人 4.5%	232人 24.2%
留学の機会 (n=958)	203人 21.2%	215人 22.4%	260人 27.1%	33人 3.4%	247人 25.8%

問9 問8の項目以外にプログラムの評価できる点、できない点を自由に記述してください。

## プログラムでの実施状況について感想をうかがいます

### VI. プログラムで受けた指導とその有効性

問10 このプログラムで、下のような指導を受けましたか。また受けた場合、それは有効ですか。

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前後のそれぞれについて回答してください。

※2020（令和2）年度以降に入学した学生は「コロナ禍前」に関する質問には回答不要です。

#### < 人的な指導 >

		どの程度の頻度で受けたか							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
副指導教員など指導教員以外の教員からの指導	コロナ禍前 (n=439)	17人 3.9%	67人 15.3%	73人 16.6%	63人 14.4%	72人 16.4%	64人 14.6%	83人 18.9%	399人 58.2%	231人 33.7%	46人 6.7%	10人 1.5%
	コロナ禍後 (n=958)	47人 4.9%	162人 16.9%	139人 14.5%	111人 11.6%	100人 10.4%	84人 8.8%	315人 32.9%				

上記の理由を記入してください（研究面、生活面、修了後の進路面 など）

		どの程度の頻度で受けたか							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
企業、政府機関など学外者からの指導、助言	コロナ禍前 (n=439)	1人 0.2%	22人 5%	37人 8.4%	49人 11.2%	80人 18.2%	36人 8.2%	214人 48.7%	209人 49.8%	173人 41.2%	29人 6.9%	9人 2.1%
	コロナ禍後 (n=958)	3人 0.3%	59人 6.2%	101人 10.5%	83人 8.7%	92人 9.6%	54人 5.6%	566人 59.1%				

上記の理由を記入してください（研究面、生活面、修了後の進路面 など）

		どの程度の頻度で受けたか							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
メンター等 による授業 外のサポート	コロナ 禍前 (n=439)	11人 2.5%	32人 7.3%	39人 8.9%	39人 8.9%	52人 11.8%	39人 8.9%	227人 51.7%	241人 57.1%	144人 34.1%	30人 7.1%	7人 1.7%
	コロナ 禍後 (n=958)	28人 2.9%	71人 7.4%	94人 9.8%	60人 6.3%	92人 9.6%	64人 6.7%	549人 57.3%				

上記の理由を記入してください（研究面、生活面、修了後の進路面 など）

<機会の提供>

		どの程度の頻度で受けたか ※							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
産学共同研究の場への参画	コロナ禍前 (n=439)	10人 2.3%	22人 5%	30人 6.8%	35人 8%	38人 8.7%	35人 8%	269人 61.3%	192人 56.1%	131人 38.3%	17人 5%	2人 0.6%
	コロナ禍後 (n=958)	18人 1.9%	62人 6.5%	67人 7%	56人 5.8%	68人 7.1%	52人 5.4%	635人 66.3%				
主専攻以外の分野の授業等の履修	コロナ禍前 (n=439)	4人 0.9%	122人 27.8%	71人 16.2%	64人 14.6%	66人 15%	37人 8.4%	75人 17.1%	418人 57.5%	270人 37.1%	34人 4.7%	5人 0.7%
	コロナ禍後 (n=958)	21人 2.2%	258人 26.9%	130人 13.6%	96人 10%	88人 9.2%	45人 4.7%	320人 33.4%				
研究室ローテーション ※ 名称は問わない (他研究室に一定期間滞在するなど、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す。)	コロナ禍前 (n=439)	18人 4.1%	38人 8.7%	25人 5.7%	11人 2.5%	33人 7.5%	36人 8.2%	278人 63.3%	226人 68.1%	95人 28.6%	9人 2.7%	2人 0.6%
	コロナ禍後 (n=958)	24人 2.5%	76人 7.9%	45人 4.7%	31人 3.2%	42人 4.4%	36人 3.8%	704人 73.5%				
プロジェクト形式による授業や課題	コロナ禍前 (n=439)	9人 2.1%	65人 14.8%	55人 12.5%	53人 12.1%	56人 12.8%	40人 9.1%	161人 36.7%	319人 59.5%	189人 35.3%	24人 4.5%	4人 0.7%
	コロナ禍後 (n=958)	17人 1.8%	151人 15.8%	111人 11.6%	72人 7.5%	87人 9.1%	55人 5.7%	465人 48.5%				
キャリアパス具体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー等	コロナ禍前 (n=439)	4人 0.9%	23人 5.2%	64人 14.6%	71人 16.2%	60人 13.7%	54人 12.3%	163人 37.1%	283人 53.3%	210人 39.5%	33人 6.2%	5人 0.9%
	コロナ禍後 (n=958)	17人 1.8%	76人 7.9%	120人 12.5%	116人 12.1%	105人 11%	71人 7.4%	453人 47.3%				

※「研究室ローテーション」については、実施した期間について、「1. 1年のうち1週間程度」「2. 1年のうち2週間程度」「3. 1年のうち1ヶ月程度」「4. 1年のうち2ヶ月程度」「5. 1年のうち3ヶ月程度」「6. 1年のうち半年程度」「7. 受けていない」から選択

上の理由や特に有効又は有効でないと思ったことがあれば自由に記述してください。

--

新型コロナウイルス感染症の影響により、当初に予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われた指導等があれば、その内容を記述してください。

--

## VII. 修学環境の整備とその有効性

問11A. このプログラムで、下のようなことは整備され、経験していますか。またそれは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック)

	整備されている			有効か			
	十分に されている	ある程度 されている	不十分	有効	ある程度 有効	あまり有 効ではな い	有効では ない
奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援 (n=958)	483人 50.4%	362人 37.8%	113人 11.8%	591人 61.7%	282人 29.4%	49人 5.1%	36人 3.8%
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生が交流するスペース、合同のセミナー等 (n=958)	341人 35.6%	457人 47.7%	160人 16.7%	387人 40.4%	386人 40.3%	128人 13.4%	57人 5.9%
外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 (n=958)	354人 37%	447人 46.7%	157人 16.4%	400人 41.8%	383人 40%	117人 12.2%	58人 6.1%
学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会 (n=958)	364人 38%	400人 41.8%	194人 20.3%	375人 39.1%	365人 38.1%	130人 13.6%	88人 9.2%
QE(Qualifying Examination)などによる審査の機会 (n=958)	549人 57.3%	349人 36.4%	60人 6.3%	496人 51.8%	353人 36.8%	68人 7.1%	41人 4.3%
英語による授業、指導、QE等の機会 (n=958)	469人 49%	420人 43.8%	69人 7.2%	471人 49.2%	381人 39.8%	70人 7.3%	36人 3.8%

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

## VIII. プログラムでの経験とその有効性

問11B. このプログラムの枠によって、下のことを経験しましたか、また経験した場合それは有効でしたか。  
 (※プログラムのカリキュラムに以下の制度・取組がない場合は「修了まで参加の予定はない」をチェックしてください。)

	経験したか			有効か（「参加した」を選択した場合のみ回答してください）			
	参加した	これから参加	修了まで参加の予定はない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）（n=958）	39人 4.1%	372人 38.8%	547人 57.1%	31人 79.5%	8人 20.5%	0人 0%	0人 0%
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）（n=958）	58人 6.1%	336人 35.1%	564人 58.9%	43人 74.1%	14人 24.1%	0人 0%	1人 1.7%
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ※1（n=958）	37人 3.9%	86人 9%	835人 87.2%	31人 83.8%	5人 13.5%	1人 2.7%	0人 0%
※1 「参加した」、「これから参加」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。							
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）（n=958）	29人 3%	227人 23.7%	702人 73.3%	25人 86.2%	3人 10.3%	1人 3.4%	0人 0%
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上）（n=958）	17人 1.8%	254人 26.5%	687人 71.7%	16人 94.1%	1人 5.9%	0人 0%	0人 0%
本プログラムの中での留学（3ヶ月未満）（n=958）	49人 5.1%	275人 28.7%	634人 66.2%	38人 77.6%	8人 16.3%	3人 6.1%	0人 0%
本プログラムの中での留学（3ヶ月以上1年未満）（n=958）	18人 1.9%	227人 23.7%	713人 74.4%	18人 100%	0人 0%	0人 0%	0人 0%
本プログラムの中での留学（1年以上）（n=958）	7人 0.7%	87人 9.1%	864人 90.2%	7人 100%	0人 0%	0人 0%	0人 0%
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動 ※2（n=958）	24人 2.5%	73人 7.6%	861人 89.9%	21人 87.5%	2人 8.3%	1人 4.2%	0人 0%
※2 「参加した」、「これから参加」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。							

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

インターンシップや留学等について、新型コロナウイルスの感染症の影響があれば記述してください。また、当初に予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われたことがあれば、その内容を記述してください。

## IX. プログラムで身に付いた能力

問12 このプログラムによって、下のような能力は身についたと思いますか。

	非常に身についた	ある程度身についた	あまり身につけていない	身につけていない
高度な専門的知識・研究能力 (n=941)	281人 29.9%	474人 50.4%	133人 14.1%	53人 5.6%
高い国際性 (n=940)	208人 22.1%	425人 45.2%	225人 23.9%	82人 8.7%
専門以外の分野の幅広い知識 (n=937)	346人 36.9%	427人 45.6%	125人 13.3%	39人 4.2%
物事を俯瞰し本質を見抜く力 (n=937)	311人 33.2%	448人 47.8%	128人 13.7%	50人 5.3%
自ら課題を発見し解決に挑む力 (n=938)	351人 37.4%	429人 45.7%	112人 11.9%	46人 4.9%
独創的な能力 (n=939)	296人 31.5%	434人 46.2%	153人 16.3%	56人 6%
チームのマネジメント力 (n=938)	236人 25.2%	383人 40.8%	228人 24.3%	91人 9.7%
企画立案、関係者との調整、統率する能力 (n=934)	239人 25.6%	394人 42.2%	217人 23.2%	84人 9%
他者と協働する力 (n=935)	335人 35.8%	416人 44.5%	125人 13.4%	59人 6.3%
その他（具体的に： ) (n=52)	40人 76.9%	6人 11.5%	4人 7.7%	2人 3.8%

## X. 教員の理解度等

問13 以下のような点について、どう考えていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
プログラムに参加する教員の間でプログラムについての理解が共有されている (n=958)	333 人 34.8%	479 人 50%	106 人 11.1%	40 人 4.2%
多くの担当教員の協働によりプログラムが運営されている（一部の教員に負担が集中しているような状態になっていない） (n=958)	351 人 36.6%	457 人 47.7%	128 人 13.4%	22 人 2.3%
指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、あなたがプログラムに参加することに協力的である (n=958)	452 人 47.2%	414 人 43.2%	73 人 7.6%	19 人 2%
学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい (n=958)	414 人 43.2%	451 人 47.1%	76 人 7.9%	17 人 1.8%
後輩にもこのプログラムを勧めたい ※ (n=958)	457 人 47.7%	436 人 45.5%	45 人 4.7%	20 人 2.1%
※ 「そう思わない」あるいは「全くそう思わない」と回答した場合、その理由を記入してください。				

## XI. プログラムの効果・負担等

問14 以下のような点について、どう考えていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた（得られそうである） (n=958)	442 人 46.1%	413 人 43.1%	78 人 8.1%	25 人 2.6%
所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている（二重の負担になっていない） (n=958)	305 人 31.8%	457 人 47.7%	153 人 16%	43 人 4.5%
所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えている (n=958)	367 人 38.3%	435 人 45.4%	107 人 11.2%	49 人 5.1%
修了後の進路に不安がない (n=958)	183 人 19.1%	311 人 32.5%	318 人 33.2%	146 人 15.2%

## ご自身の今後の希望や本プログラムによる成果などについてうかがいます

### XII. 修了後の進路

問15 修了後の進路についてどのような希望をもっていますか。

	大学院入学時の希望 (いくつでも) (n=958)	現在の希望 (いくつでも) (n=958)	既に進路が 決定している (希望ではなく、決 定している場合1つ だけ) (n=160)
民間企業に就職 (研究者以外として)	288 人 30.1%	279 人 29.1%	19 人 11.9%
民間企業に就職 (研究者として)	585 人 61.1%	632 人 66%	56 人 35%
官公庁に就職	125 人 13%	135 人 14.1%	7 人 4.4%
国際機関に就職	183 人 19.1%	199 人 20.8%	7 人 4.4%
NPO・NGO等 (公共的サービスの提供主体) に 就職	64 人 6.7%	71 人 7.4%	0 人 0%
医師、弁護士などの専門職	85 人 8.9%	78 人 8.1%	12 人 7.5%
起業	109 人 11.4%	179 人 18.7%	7 人 4.4%
大学 (海外を含む) に研究者として就職	512 人 53.4%	493 人 51.5%	25 人 15.6%
その他公的研究機関 (海外を含む) に研究者として 就職	388 人 40.5%	405 人 42.3%	5 人 3.1%
ポスドク (博士研究員)	385 人 40.2%	389 人 40.6%	16 人 10%
その他 (具体的に : )	9 人 0.9%	11 人 1.1%	6 人 3.8%
決めていない	38 人 4%	33 人 3.4%	

問16 プログラムへの参加によって、あなたの人生観、職業観、世界観、国際意識などがどのように変わったかを自由に記入してください。

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 （ はい ・ いいえ ）

問17 大学や研究機関、民間企業、公的研究機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材となるために、所属するプログラムにおいてあなたが主体的に行った活動、及びその成果について自由に記入してください。

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 （ はい ・ いいえ ）

## 全般的なご意見をうかがいます

問18 あなたが参加するプログラムについて、あなたの将来に向けてこのプログラムがどう役立っているか、又はどのように改善してほしいかも含め、感想、ご意見を自由に記入してください。(下記①～③のうち1つでも構いません。)

①<プログラムが役立っている点・良い点>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 ( はい ・ いいえ )

②<改善して欲しい点>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 ( はい ・ いいえ )

③<その他>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 ( はい ・ いいえ )

(参考情報) よろしければご協力ください

問19 あなたはこのプログラムをどのようにして知りましたか (任意回答・あてはまるもの全てに○) (n=919)

1	参加プログラムのホームページ	242人 26.3%
2	文部科学省のホームページ	47人 5.1%
3	日本学術振興会のホームページ	32人 3.5%
4	参加プログラムのリーフレット等	137人 14.9%
5	大学で行われた説明会・シンポジウム等	489人 53.2%
6	大学以外の場所で行われた説明会・シンポジウム等	22人 2.4%
7	新聞、雑誌等の公告	6人 0.7%

8	プログラム担当者の教員	434人 47.2%
9	プログラム担当者以外の教員	139人 15.1%
10	学内の友人・知人	248人 27%
11	学外の友人・知人	20人 2.2%
12	Facebook等のSNS	8人 0.9%
13	その他(具体的に: )	20人 2.2%

調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

卓越大学院プログラム  
平成30年度採択プログラム中間評価  
プログラム担当者アンケート調査

- この調査は卓越大学院プログラム（注）の平成30年度採択プログラムの中間評価の一環として実施するものです。採択されたプログラムを担当しておられる大学院教員の方、および学外から協力いただいている方にご意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。

注 <卓越大学院プログラムとは>

「卓越大学院プログラム(WISE Program : Doctoral Program for World-leading Innovative & Smart Education)」(以下「本事業」という。)は、新たな知の創造と活用を主導し、次代を牽引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成することを目的とする事業です。

本事業により、これまで行われてきた世界的課題を解決するグローバルリーダーの育成に加え、今後はさらに、世界の学術を牽引する卓越した研究者や、知を社会に実装することを主導する起業家、イノベーションをリードする企業人、国内外のパブリック・セクターにおいて政策立案をリードする人材など、俯瞰力及び独創力並びに高度な専門性を備え、大学や研究機関、民間企業、公的機関等のそれぞれのセクターを牽引する卓越した博士人材、すなわち、高度な「知のプロフェッショナル」をあらゆるセクターに対し輩出することが期待されています。

## 担当されているプログラムと、御自身についてうかがいます

### I. 回答者の属性

問1 担当の大学・プログラム名・プログラムの設定する領域について、以下に表示されている内容を確認してください。

全体

問2 年齢、性別について選択してください。

年齢 (n=1,011)	1. 30歳代以下	2. 40歳代	3. 50歳代	4. 60歳以上
	81人 8%	297人 29.4%	434人 42.9%	199人 19.7%
性別 (n=1,011)	1. 女性	2. 男性		
	122人 12.1%	889人 87.9%		

問3 プログラムとの関係（それぞれ一つを選択）

プログラムに参加した年 (n=1,011)	1. 2018（平成30）年度	2. 2019（令和元）年度	3. 2020（令和2）年度	4. 2021（令和3）年度
	665人 65.8%	708人 70%	808人 79.9%	740人 73.2%

エフォート (n=1,011) 申請書に記載されたもの	1. 1割未満	2. 1割以上 2割未満	3. 2割以上 3割未満	4. 3割以上 4割未満	5. 4割以上 5割未満	6. 5割以上 6割未満
	435人 43%	226人 22.4%	56人 5.5%	36人 3.6%	3人 0.3%	0人 0%
	7. 6割以上 7割未満	8. 7割以上 8割未満	9. 8割以上 9割未満	10. 9割以上	11. 採択された後にプログラム担当者になった	
	2人 0.2%	4人 0.4%	5人 0.5%	7人 0.7%	237人 23.4%	

エフォート (n=1,011) 令和2年度の実績	1. 1割未満	2. 1割以上 2割未満	3. 2割以上 3割未満	4. 3割以上 4割未満	5. 4割以上 5割未満	6. 5割以上 6割未満
	614人 60.7%	257人 25.4%	55人 5.4%	29人 2.9%	11人 1.1%	6人 0.6%
	7. 6割以上 7割未満	8. 7割以上 8割未満	9. 8割以上 9割未満	10. 9割以上		
	3人 0.3%	4人 0.4%	8人 0.8%	24人 2.4%		

本プログラムの学生に直接に接する頻度 (n=1,011)	1. 日常的	2. 週に1回程度	3. 月に1~2回程度	4. 年に1回~数回	5. 直接には接しない
	317人 31.4%	91人 9%	133人 13.2%	271人 26.8%	199人 19.7%

所属(本務) (n=1,011)	1. 当該大学院・参画研究科・専攻等 (プログラムの経費により雇用されている者を除く)	2. 当該大学院・参画研究科・専攻等 (プログラムの経費による雇用)	3. 当該大学 (1、2以外)	4. 他大学	5. 研究機関	6. 民間企業
	664人 65.7%	41人 4.1%	121人 12%	30人 3%	39人 3.9%	95人 9.4%
	7. 政府・自治体	8. 国際機関	9. その他			
	4人 0.4%	7人 0.7%	10人 1%			

↓  
具体的に書いてください

## Ⅱ. プログラムへの関与

問4 このプログラムではどのようなことを担当されていますか(あてはまる項目すべてをクリック) (n=1,011)

1	単独で講義を担当	267人 26.4%	7	学生募集・入学者選抜	259人 25.6%
2	単独で演習を担当	92人 9.1%	8	就職支援	62人 6.1%
3	協同講義、演習への参加	381人 37.7%	9	プログラムの企画、カリキュラムの作成	262人 25.9%
4	個別学生の研究指導	460人 45.5%	10	インターンシップ	91人 9%
5	学生のメンター	360人 35.6%	11	広報	91人 9%
6	留学プログラム	58人 5.7%	12	その他	125人 12.4%

別に特に担当されていることがあれば、ご記入ください

具体的に書いてください

## プログラムの実施状況について感想をうかがいます

### Ⅲ. 指導等の内容

問5 このプログラムで、先生は下のような指導を行われていますか。また、行っている場合はそれは有効ですか。(それぞれ該当する回答をクリック。カリキュラムにない場合や今後行う場合は「行っていない」に該当。)新型コロナウイルス感染症の影響前後のそれぞれについて回答してください。

		どの程度の頻度で行っているか ※							有効か			
		毎日	一週間に1回程度	一ヶ月に1回程度	三ヶ月に1回程度	半年に1回程度	半年に1回程度未満	行っていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
指導学生以外の学生への指導	コロナ禍前 (n=835)	57人 6.8%	106人 12.7%	74人 8.9%	75人 9%	117人 14%	77人 9.2%	329人 39.4%	347人 58.7%	236人 39.9%	8人 1.4%	0人 0%
	コロナ禍後 (n=1,011)	63人 6.2%	121人 12%	87人 8.6%	70人 6.9%	138人 13.6%	81人 8%	451人 44.6%				
主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等	コロナ禍前 (n=835)	5人 0.6%	91人 10.9%	42人 5%	52人 6.2%	117人 14%	115人 13.8%	413人 49.5%	276人 55.5%	211人 42.5%	8人 1.6%	2人 0.4%
	コロナ禍後 (n=1,011)	7人 0.7%	98人 9.7%	53人 5.2%	53人 5.2%	132人 13.1%	120人 11.9%	548人 54.2%				
産学共同研究の場への学生の参画	コロナ禍前 (n=835)	29人 3.5%	54人 6.5%	44人 5.3%	57人 6.8%	61人 7.3%	59人 7.1%	531人 63.6%	218人 (63.2%)	120人 (34.8%)	7人 (2%)	0人 (0%)
	コロナ禍後 (n=1,011)	31人 3.1%	59人 5.8%	50人 4.9%	61人 6%	60人 5.9%	63人 6.2%	687人 68%				
研究室ローテーションの受け入れ ※名称は問わない(他研究室に一定期間滞在するなど、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す。)	コロナ禍前 (n=835)	14人 1.7%	44人 5.3%	28人 3.4%	22人 2.6%	71人 8.5%	69人 8.3%	587人 70.3%	183人 (65.1%)	90人 (32%)	7人 (2.5%)	1人 (0.4%)
	コロナ禍後 (n=1,011)	16人 1.6%	45人 4.5%	27人 2.7%	21人 2.1%	65人 6.4%	66人 6.5%	771人 76.3%				
プロジェクト形式による授業や課題	コロナ禍前 (n=835)	9人 1.1%	54人 6.5%	47人 5.6%	33人 4%	73人 8.7%	82人 9.8%	537人 64.3%	232人 (65.2%)	117人 (32.9%)	6人 (1.7%)	1人 (0.3%)
	コロナ禍後 (n=1,011)	14人 1.4%	59人 5.8%	55人 5.4%	36人 3.6%	82人 8.1%	84人 8.3%	681人 67.4%				
メンター等としての授業外のサポート	コロナ禍前 (n=835)	37人 4.4%	79人 9.5%	78人 9.3%	44人 5.3%	95人 11.4%	91人 10.9%	411人 49.2%	302人 (59.2%)	190人 (37.3%)	16人 (3.1%)	2人 (0.4%)
	コロナ禍後 (n=1,011)	44人 4.4%	91人 9%	93人 9.2%	55人 5.4%	101人 10%	94人 9.3%	533人 52.7%				

※「研究室ローテーション」については、実施した期間について、「1. 1年のうち1週間程度」「2. 1年のうち2週間程度」「3. 1年のうち1ヶ月程度」「4. 1年のうち2ヶ月程度」「5. 1年のうち3ヶ月程度」「6. 1年のうち半年程度」「7. 行っていない」から選択

#### IV. 学生の学修環境の整備状況とその有効性

問6 このプログラムで、下のようなことは実施、あるいは整備されていますか。また1～3を選択した場合、それは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック。プログラムのカリキュラムにない場合や今後行う場合は「されていない」に該当。)

	整備されているか				有効か			
	十分に されている	ある程度 されている	されてい ない	分からな い	有効	ある程度 有効	あまり有 効ではな い	有効では ない
企業、政府機関など学外者からの指導 (n=1,011)	412人 40.8%	316人 31.3%	27人 2.7%	256人 25.3%	493人 65.3%	246人 32.6%	14人 1.9%	2人 0.3%
キャリアパス具体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招 いたセミナー等 (n=1,011)	435人 43%	321人 31.8%	21人 2.1%	234人 23.1%	508人 65.4%	255人 32.8%	11人 1.4%	3人 0.4%
奨励金や授業料免除等大学からの金銭 的支援 (n=1,011)	516人 51%	269人 26.6%	23人 2.3%	203人 20.1%	602人 74.5%	188人 23.3%	12人 1.5%	6人 0.7%
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生の交流スペース、合同のセミナ ー等 (n=1,011)	491人 48.6%	309人 30.6%	28人 2.8%	183人 18.1%	564人 68.1%	246人 29.7%	15人 1.8%	3人 0.4%
外国人、職業人など、通常の大学院では 接触しにくい人との交流の機会 (n=1,011)	472人 46.7%	323人 31.9%	24人 2.4%	192人 19%	558人 68.1%	243人 29.7%	16人 2%	2人 0.2%
国内の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ（1月未満） (n=1,011)	275人 27.2%	256人 25.3%	51人 5%	429人 42.4%	347人 59.6%	201人 34.5%	24人 4.1%	10人 1.7%
国内の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ（1月以上） (n=1,011)	240人 23.7%	235人 23.2%	68人 6.7%	468人 46.3%	323人 59.5%	177人 32.6%	31人 5.7%	12人 2.2%
国内の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ以外の国内で の学外活動 ※1 (n=1,011)	127人 12.6%	97人 9.6%	125人 12.4%	662人 65.5%	186人 53.3%	110人 31.5%	42人 12%	11人 3.2%
※1 「十分にされている」、「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。								
海外の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ（1月未満） (n=1,011)	197人 19.5%	201人 19.9%	86人 8.5%	527人 52.1%	276人 57%	160人 33.1%	34人 7%	14人 2.9%
海外の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ（1月以上） (n=1,011)	183人 18.1%	188人 18.6%	97人 9.6%	543人 53.7%	260人 55.6%	161人 34.4%	32人 6.8%	15人 3.2%
本プログラムの中での留学 (n=1,011)	200人 19.8%	227人 22.5%	95人 9.4%	489人 48.4%	310人 59.4%	168人 32.2%	30人 5.7%	14人 2.7%
海外の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップおよび留学以 外の国外での学外活動 ※2 (n=1,011)	113人 11.2%	89人 8.8%	141人 13.9%	668人 66.1%	170人 49.6%	111人 32.4%	50人 14.6%	12人 3.5%
※2 「十分にされている」、「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。								

新型コロナウイルスの感染症の影響があれば記述してください。また、当初に予定されていた実施方法とは別の方法により代替して行われたことがあれば、その内容を記述してください。

## V. プログラムの有効性

問7 このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせるのに、どの程度有効ですか。

	非常に有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
高度な専門的知識・研究能力 (n=999)	560人 56.1%	399人 39.9%	34人 3.4%	6人 0.6%
高い国際性 (n=999)	532人 53.3%	409人 40.9%	50人 5%	8人 0.8%
専門以外の分野の幅広い知識 (n=997)	616人 61.8%	343人 34.4%	35人 3.5%	3人 0.3%
物事を俯瞰し本質を見抜く力 (n=996)	565人 56.7%	390人 39.2%	33人 3.3%	8人 0.8%
自ら課題を発見し解決に挑む力 (n=994)	620人 62.4%	336人 33.8%	35人 3.5%	3人 0.3%
独創的な能力 (n=996)	477人 47.9%	457人 45.9%	54人 5.4%	8人 0.8%
チームのマネージメント力 (n=995)	437人 43.9%	460人 46.2%	87人 8.7%	11人 1.1%
企画立案、関係者との調整、統率する能力 (n=990)	481人 48.6%	437人 44.1%	68人 6.9%	4人 0.4%
他者と協働する力 (n=992)	553人 55.7%	387人 39%	48人 4.8%	4人 0.4%
その他（具体的に：） (n=109)	95人 87.2%	12人 11%	1人 0.9%	1人 0.9%

## VI. プログラムの運営・管理

問8 運営・管理の面で、以下の点についてどう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
産業界、行政機関、NPO等によるプログラムへの参画と就職先に関する情報提供が行われている (n=994)	312人 31.4%	537人 54%	137人 13.8%	8人 0.8%
学長のリーダーシップが発揮されている (n=991)	326人 32.9%	509人 51.4%	143人 14.4%	13人 1.3%
大学本部による関与・サポートを含めた連携する民間企業と「組織」対「組織」の連携・協力体制が構築されている (n=994)	377人 37.9%	498人 50.1%	107人 10.8%	12人 1.2%
プログラムの継続・発展を図るための民間企業等による積極的な投資が行われている (n=992)	251人 25.3%	480人 48.4%	242人 24.4%	19人 1.9%
大学と連携先機関との若手教員の人事交流及びそれを促進する仕組みが構築されている (n=991)	267人 26.9%	511人 51.6%	193人 19.5%	20人 2%
コストを意識した運営がなされている (n=990)	317人 32%	574人 58%	88人 8.9%	11人 1.1%
学内外へのプログラム内容や成果の広報が積極的に行われている (n=993)	429人 43.2%	483人 48.6%	74人 7.5%	7人 0.7%

## VII. プログラムに対する印象

問9 以下の点について、どう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています (n=1,001)	368 人 36.8%	541 人 54%	83 人 8.3%	9 人 0.9%
連携先機関と共通理念に基づいた教育が行われている (n=992)	344 人 34.7%	574 人 57.9%	68 人 6.9%	6 人 0.6%
既存の研究科等や機関の枠を超え、博士課程前期・後期一貫した体系的な教育課程の編成による高度な研究を通じた組織的な教育が行われている (n=995)	488 人 49%	454 人 45.6%	47 人 4.7%	6 人 0.6%
プログラムを通じて授与される学位の質保証が適切に行われている (n=991)	469 人 47.3%	480 人 48.4%	37 人 3.7%	5 人 0.5%
多くの担当教員の協働によりプログラムが運営されている（一部の教員に負担が集中しているような状態になっていない） (n=994)	367 人 36.9%	514 人 51.7%	100 人 10.1%	13 人 1.3%
プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である (n=992)	349 人 35.2%	512 人 51.6%	120 人 12.1%	11 人 1.1%
大学の執行部が、プログラムの目的を理解し、協力的である (n=994)	465 人 46.8%	470 人 47.3%	51 人 5.1%	8 人 0.8%
優秀な学生が多数入学している (n=992)	505 人 50.9%	439 人 44.3%	40 人 4%	8 人 0.8%
今後優秀な学生をより多く獲得できる (n=991)	461 人 46.5%	467 人 47.1%	54 人 5.4%	9 人 0.9%
優秀な社会人の博士学位の取得促進が行われている (n=990)	272 人 27.5%	507 人 51.2%	193 人 19.5%	18 人 1.8%
学生はプログラムの意図を良く理解している (n=994)	417 人 42%	531 人 53.4%	36 人 3.6%	10 人 1%
学生にとって、将来の進路が明確になっている (n=991)	330 人 33.3%	515 人 52%	135 人 13.6%	11 人 1.1%
学術研究だけでなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作りだす見込みがある (n=997)	482 人 48.3%	451 人 45.2%	56 人 5.6%	8 人 0.8%
このプログラムによって、大学院制度の改善に大きな示唆が得られている (n=993)	391 人 39.4%	485 人 48.8%	100 人 10.1%	17 人 1.7%
このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある (n=986)	235 人 23.8%	547 人 55.5%	176 人 17.8%	28 人 2.8%
これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい (n=992)	508 人 51.2%	433 人 43.6%	39 人 3.9%	12 人 1.2%

## プログラムの改善のための方策についてうかがいます

### VIII. プログラムの改善

問10-1 このプログラムにおいてあなたが担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケート(紙面やパソコン上のデータとして記録・保存をしているもの)を行っていますか。下記から一つ選択してください。(n=1,011)

1	担当する全ての役割等において実施している	117人 11.6%
2	担当する一部の役割等において実施している	252人 24.9%
3	実施していない	642人 63.5%

【1または2と回答した方のみお答えください】

問10-2 上記評価やアンケートの結果を踏まえ、具体的に改善を図った内容があれば、その内容についてお答えください。

問11 以下の点について、どう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる(得られそうである) (n=999)	520人 52.1%	446人 44.6%	27人 2.7%	6人 0.6%
学生にとって、所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が過大な負担にならないように考慮されている(二重の負担になっていない) (n=991)	302人 30.5%	576人 58.1%	105人 10.6%	8人 0.8%
プログラムに参画している学生は所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられると考えられる (n=991)	443人 44.7%	500人 50.5%	43人 4.3%	5人 0.5%
学生の将来の進路に不安がない (n=993)	250人 25.2%	499人 50.3%	227人 22.9%	17人 1.7%

## 全般的なご意見をうかがいます

問12 この質問票でお尋ねした点、あるいは、それ以外にも、このプログラムについてお考えがあれば、ご意見を自由にお書きください

--

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 （ はい ・ いいえ ）

調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。